



WMF 5000 S+

取扱説明書

日本語

弊社のWMFコーヒーマシンをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

WMF 5000 S+はエスプレッソ、カフェレム、カプチーノ、カフェテ、ラマキアート、ミルクフォーム、熱湯を供給する全自動コーヒーマシンです。「淹れたてフィルターコーヒー」の拡張オプションを使用して、WMF 5000 S+では挽きたてのフィルターコーヒーを淹れることができます。

オプションのパウダーストパーを使用すると、WMF 5000 S+ではミルクもしくはミルクフォーム入りのホットチョコレートを淹れることができます。

取扱説明書の指示に従ってください



- > 使用前に取扱説明書をお読みください。
- > 取扱説明書、特に安全上の注意事項と「安全性」の章の指示を遵守してください。
- > コーヒーマシンの警告注記に注意してください。
- > 取扱説明書はスタッフや全ユーザーがいつでも参照できるようにしてください。

注意

取扱説明書の記号とアイコンに従ってください
22ℓ以降
安全性についての章を参照
▷7ℓ以降

感電死の危険あり



- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。
- > マシン外装は絶対に開けないでください。
- > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。

警告

安全性についての章を参照
▷7ℓ以降

設置・使用条件

- メンテナンス規定や「テクニカル」の章にある規定の遵守を怠った場合、損害が発生しても一切責任を負いかねます。
- > 取扱説明書の指示に従ってください。
- > 試運転調整、メンテナンス、修理に係る作業はすべて、正規交換部品を使用する条件でWMFサービス担当者によってのみ行われることが許可されています。

重要

テクニカル
▷118ℓ以降
メンテナンス
▷105ℓ以降

1	安全性	7
1.1	一般的な安全上の注意事項	7
1.2	使用目的	14
1.3	設置・使用条件	17
2	序章	20
2.1	コーヒーマシンの各部名称	20
	供給可能表示	20
	用語集	23
3	操作	24
3.1	操作に関する安全上の注意事項	24
3.2	その他書類	25
3.3	コーヒーマシンのスイッチを入れる	26
3.4	ミルクまたはミルクフォーム	26
3.4.1	ミルクを接続する	26
3.5	飲料供給	27
	飲料のキャンセル	27
3.6	淹れたてフィルターコーヒー-FFC (オフ ション)	27
3.7	事前選択パッド (オフ ション)	28
3.8	オフ ションのフィード	28
3.9	カップ サイズ 調整	28
3.10	熱湯供給	28
3.11	スチーム供給	29
3.11.1	オートスチーム (オフ ション)	30
3.11.2	イージー スチーム (オフ ション)	30
3.11.3	スチームジ エットカップ ウォーマー	31
3.12	コンベ 供給口の高さ調整	32
	自動高さ調整	32
	カップ 検出 (オフ ション)	32
3.13	コーヒー豆ホッパ -/パ ヴァ -ホッパ -	32
3.14	マニュアル投入口ロック可能	33
3.15	コーヒーが受け	34
3.16	コーヒーが落とし (オフ ション)	34
3.17	ト リップ トレイ	35
3.18	コーヒーマシンのスイッチを切る	35
4	ソフトウェア	36
4.1	概要	36
	供給可能	36
	機能ライン供給可能表示	36
	メインメニューの機能	37
	メニュー制御パッド	37
	パ ネル上の通知	37
4.2	供給可能表示	38
4.2.1	飲料ホッパ	38
4.2.2	機能ライン	38
	熱湯ホッパ	38
	スチームジ エットパッド	38
	ホットリンスパッド	39
	栄養成分情報	39

目次

カップ サイズ 調整	39
S/M/L [®] パッド	39
パリスパッド [®] - コーヒーの濃さ	39
ミルクシステム補充	40
2種類目のコーヒー(テ [®] カフェ)	40
2種類目のミルクタイプ [®] (オ [®] ジョン)	40
スチムボタン	40
4.3 カスタマーケア	41
システムクリーニング	41
ミキサーリンス	41
ミルクシステムクリーニング	41
徹底システムクリーニング (AutoClean)	42
FFC フィルター交換	42
フォーマーのリンス	42
グリーンロック	42
説明	43
ミルクシステム補充(タイミックミルク)	43
設定	43
4.4 飲料	44
概要	44
カップ 容量、複数倍の抽出と供給オ [®] ジョン	45
レシ [®] の変更	47
コーヒーゲ [®] ライン [®] を選択	50
テキスト、画像、カップ 高さ	50
ボタンの入れ替え	52
4.5 操作オ[®]ジョン	53
操作要素	53
ボタンレイアウト	56
ボ [®] ストレクション	57
カフェインフリー	57
飲料 [®] レレクション	58
飲料のキャンセル	58
ミルクフォームの選択	58
ロゴ	59
4.6 インフォメーション	60
前回の抽出	60
タイマー	60
サービス	60
カスタマーケア	60
浄水フィルタと加 [®] 除去	60
ブ [®] ロトル	60
4.7 会計	61
カウンター	61
自動販売機	61
外部会計	61
無料設定	62
4.8 PIN権限	62
クリーニング PIN	63
設定PIN	63
会計PIN	63
新しいPINを入力	63

4.9 タイマ	64
時刻/日付	64
タイマ	64
タイマ 予定表とタイマの設定	64
タイマ 削除	65
タイマ 日別概要	65
タイマの入る時間を設定	65
AutoCleanクリーニング	66
ボタンレイアウト	66
イコモード	67
サマタイム	67
時刻帯	67
4.10 システム	68
クーラー	68
品質チェック(タ イミックス)	69
プ ログ レス ディスプレイ	69
ディスプレイと照明	69
パ ンの照度	70
ディスプレイ照度は自動的に減少	70
タッチキャリブレーション	70
パ ンの背景	70
飲料:文字 + 色	71
浄水フィルター	71
イコモード	72
温度	72
挽き目設定	73
抽出圧表示	73
ボ ーション	73
Bluetooth(オプ ション)	73
S-M-L機能	74
シロップ(オプ ション)	74
ミルク(オプ ション)	74
栄養成分情報	75
カップ 検出(オプ ション)	75
デ ジ タルリユーション	78
4.11 言語	78
4.12 イコモード	79
イコモード 表示	79
4.13 USB	80
レシピ をロード する	80
飲料のマークをロード する	80
レシピ の保存	80
レシピ をPDFファイルとしてセーブ する	80
カンターのイクスポート	80
HACCPイクスポート	81
データのバックアップ	81
データをロード する	81
言語をロード する	81
ファームウェアの更新	81

目次

5	かたマーケア	82
5.1	安全上の注意事項 かたマーケア	82
5.2	クリーニング 頻度の概要	84
5.3	クリーニング プログラム	85
5.3.1	システムクリーニング	85
5.3.2	ミルクシステムクリーニング	89
5.3.3	フォーマーのリス	90
5.3.4	フォーマーのリス(タ イミックミル)	90
5.3.5	ミキサーリス	91
5.3.6	FFC フィルター交換	91
5.4	クリーニング タブレットを補充する (AutoClean)	92
	コーヒークリーニング 顆粒	92
	ミルクシステム クリーナー	92
5.5	手動クリーニング	93
5.5.1	操作パネルクリーニング (クリーンロック)	93
5.5.2	コーヒークリーニング (挽いた豆のスライド / オプション)	94
5.5.3	ドリッパー トレーのクリーニング	94
5.5.4	ハウジング とカップ センサーをクリーニング	95
5.5.5	ミルクシステムをマニュアルでクリーニング	95
5.5.6	ミキサーのクリーニング	97
5.5.7	オートスチムスチムノズルのクリーニング	98
5.5.8	コーヒークリーニング ホッパーのクリーニング	100
5.5.9	パウダーホッパーのクリーニング	101
6	HACCPクリーニング コンセプト	103
7	メンテナンスとcaling除去	105
7.1	メンテナンス	105
7.2	WMF サービス	106
8	メッセージと注意事項	107
8.1	操作上の通知	107
8.2	エラー通知と不具合	108
8.3	エラー通知なしの不具合	110
9	安全性と保証	113
9.1	コーヒーマシンに対する危険	113
9.2	ガイドライン	114
9.3	管理責任者の義務	116
9.4	保証請求	117
付録:テクニカルデータ		118
コーヒーマシンのテクニカルデータ		118
付録:アクセサリとスプレッドシート		122
索引		124

1 安全性

誤った使用法

- 安全上の注意事項に従わないと、大怪我をすることがあります。
- > すべての安全上の注意事項に必ず従ってください。

 警告

1.1 一般的な安全上の注意事項

1-ガー-に対する危険性

WMFの製品は、安全性に最大限配慮していることが大きな特徴です。以下に記載されている項目が守られていない場合は安全装置の効果が保証されません:

 > 使用前に取扱説明書をよくお読みください。

 > 高温になったマシン部分には触れないでください。

 > コーヒーマシンが正しく機能しないか損傷している場合は絶対に使用しないでください。

- > 完全に組み立てられている状態でのみ、コーヒーマシンを使用してください。

 注意



> 内蔵されている安全装置はどのような状況においても、絶対に変更しないでください。



> マシンを8歳未満のお子様や身体が不自由な方、知的能力の弱い方、経験や知識不足の方が使用する場合は、必ず十分な使用経験と知識をお持ちの方がそばにつき添い、正しい知識や指示でマシンを安全に使用し、発生するリスクを理解した状態でお使いください。



> お子様にマシンで遊ばせないでください。

> クリーニングやユーザーメンテナンスをお子様にさせないでください。

⚠ 注意

安全装置が搭載されていても、コーヒーマシンの使用を誤ると危険です。怪我や健康被害のおそれを避けるために、コーヒーマシンを使用する際には以下の指示に従ってください。

感電死の危険あり

警告



- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。

- > マシン外装は絶対に開けないでください。
- > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。
- > 電源ケーブルが損傷しないようにしてください。曲げたり、押しつぶしたりしないでください。
- > 破損した電源ケーブルは絶対に使用しないでください。破損した主電源ケーブルの使用は危ないので、危険を避けるために製造者またはサービス担当者により交換を受けてください。
- > 電源プラグを水や液体に浸けないでください。水や液体を電源プラグにかけないでください。プラグは常に乾燥した状態に保ってください。
- > コーヒーマシンの背面にあるプラグは、電源からケーブルを外した後に引き抜きます。
- > メンテナンスや修理の前にコーヒーマシンを電源から離してください。電源から離すにはプラグを引き抜きます。メンテナンスまたは修理を行う者は電源が入っていないことを必ず目視ではっきりと確認できなければなりません。

火傷の危険/火傷のおそれあり



- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- スチームジェットカップウォーマーからは、高温のスチームが供給されます。そのため、カップとその周辺の表面が熱くなります。
- 加熱フェーズ中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
 - > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

 注意



怪我のおそれ

- 長い髪の毛はグラインダーに巻き込まれ、コーヒーマシンに引き込まれるおそれがあります。
- > 髪の毛は、必ずヘアネットを被って保護してください。

⚠ 注意



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- 操作パネルを閉じるときは、手や指が挟まれるおそれがあるので注意してください。
- > コーヒングラインダーや抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。
- > 操作パネルを閉じるときは注意しながら行ってください。
- > 稼働する供給口のエリアを握らないでください。

⚠ 注意



健康被害のおそれ

- > 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
- > パウダーホッパー、コーヒー豆ホッパー、マニュアル投入口を使用する場合、用途に見合った材料のみを入れてください。

⚠ 注意



スリッパの危険あり



- コーヒーマシンの誤った使用、または不具合によって水漏れが発生する恐れがあります。これらの液体によるスリッパの危険があるため、注意してください。
- ミルククリーナーのボトルを交換する際に、液体がこぼれることがあります。これが原因となり、滑って怪我をするおそれがあります。
- > コーヒーマシンの密閉性が保たれているか、水漏れがないか、定期的にチェックしてください。
- > ミルククリーナーのボトルを慎重に交換してください。液体がこぼれた場合は、すぐにふき取ってください。

⚠ 注意



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり

△ 注意

- ・ クリーニング中にコンビ 供給口と熱湯の供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
 - ・ 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
 - ・ ドリップトレイには高温の液体がたまっていることがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。
- > ドリップトレイは慎重に動かしてください。



健康被害のおそれ

△ 注意

- ・ ミルクシステム用洗剤やクリーニングタブレットは刺激物です。
- > 洗剤のパッケージに記載されている注意事項に従ってください。
- > クリーニングタブレットはパネル上に通知が表示されてから使用してください。

1.2 使用目的

誤った使用法

- ・ マシンを本来の目的以外で使用した場合、怪我のおそれがあります。
 - ▷ コーヒーマシンは本来の使用目的のみで使用してください。

警告

- ガイドライン
- ▷ 114° - ジ
- テクニカルデータ
- ▷ 118° - ジ

- ・ WMF 5000 S+はコーヒー、ミルク、パウダー（チョコ／トッピング）を組み合わせて適切な容器に飲み物を供給するように設計されています。
- ・ 使用するコーヒー豆、ミルク、トッピング、チョコパウダー製品は全自動コーヒーマシンでの加工に適したものを使用してください。消費期限を過ぎた製品は加工に使用しないでください。
- ・ 本機は業務用での使用を想定し設計されており、売店や事務所、レストランやホテル、または同様の使用環境にある専門員や教育を受けたユーザーによる使用を意図しています。また、ご家庭でも使用していただけます。

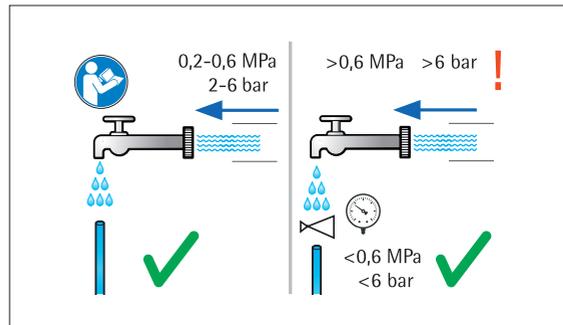
設置場所

- 本機は使用方法の教育を受けた人員が監督する環境であれば、セルフサービスで使用しても構いません。
本機はよく見える場所に設置してください。
- 本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。
- 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
- 水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。

給水接続

- メインコックとフィルター（メッシュ幅0.08 mm）付き3/8インチのホース接続（現場側で用意）。2 L/分の時の最小水圧0.2 MPa (2 bar)。最高水圧0.6 Mpa (6 bar)。

重要! 現地の水圧が0.6 MPa (6 bar) を超える場合には、最大0.6 MPa (6 bar) に設定されるよう、必ず減圧弁をあらかじめ作動させる必要があります。



- 最大供給温度 35 °C。
- コーヒーマシン、直結給水接続用キットまたは新しい浄水フィルターと一緒に納品されるホースセットを使用する必要があります。使い古したホースは再使用しないでください。

周辺温度

- 環境温度: +5 °C ~ +35 °C

使用

- 本機は必ずお手元の取扱説明書に従って使用してください。取扱説明書と異なったり、取扱説明書から逸脱したりする使用は、不適切とみなされます。これにより損傷が発生しても、製造者は一切責任を負いかねます。
- **WMF 5000 S+はコーヒー、熱湯（飲料、クリーニング液）あるいはミルク（冷蔵、低温殺菌、牀牛乳、ロングライフミルク）を加熱・供給するためのものであり、それ以外の使用は絶対に避けてください。**

衛生

- コーヒーマシンは、支障なくメンテナンスを行える場所に、管理責任者が設置してください。
- 事務所やカフェでの使用など、セルフサービスでコーヒーマシンをご使用になる場合は、操作方法を心得たスタッフがコーヒーマシンを管理しなければなりません。トレーニングを受けたスタッフがメンテナンス措置を守っていることを確認し、利用上の質問に対応するようにしてください。

1.3 設置・使用条件



火災のおそれ/事故のおそれあり

- > テクニカルデータの章で規定されている設置・使用条件は遵守しなければなりません。
- > マシンのプラグを差し込む前に、接地する側の電源電圧と機銘板に記載されている仕様情報が対応していることを確認してください。

警告

テクニカルデータ
▷118°-ジ
安全性についての章を参照
▷7°-ジ以降



設置・使用条件

- > コーヒーマシンは霜のつかない屋内でのみ使用します。
- > コーヒーマシンを5℃以下の温度環境で輸送または保管していた場合は、試運転調整を行う前に必ず5時間以上室内に置いて部屋の温度に馴染ませてください。

重要

テクニカルデータ
▷118°-ジ以降

電気接続、給水接続、排水接続等の、現場側での準備作業は、マシンの管理責任者が手配しなければなりません。一般的なものから国・地域で規定される法令に注意して認定設置者により設置を行ってください。WMF サービスエンジニアが担当できるのは、用意された接続部にコーヒーマシンを接続する作業だけです。WMF サービスエンジニアによる現場での据付作業は認められていないため、エンジニアは据付の実施については責任を負いかねます。

機器の接続と使用開始の作業は必ずWMF サービスが行います。

2 序章

2.1 コーヒーマシンの各部名称



供給可能表示



ヘッドライン

機能ライン

- 1 コーヒー豆ホッパ° - (最大 2 つまで)、ロック可能
- 2 パ° ウダ° -ホッパ° - (オフ° ション)、ロック式 (例: チョココまたはトッピ° ング°)
- 3 マニュアル投入口/洗浄剤投入口
- 4 淹れたてフィルターコーヒー - FFC (オフ° ション)
- 5 飲料ボ° タンと設定用タッチパ° ネル
- 6 熱湯/ス° ル
- 7 自動カップ° 検出 (オフ° ション)
- 8 コーヒーカス受け
- 9 スチ° ムジ° エットカップ° ウォーマー
- 10 取り外し可能なド° リップ° トレー (ド° リップ° グ° リット° 付き)
- 11 スチ° ム/ス° ル (オフ° ション)
- 12 ミルクウォーマー内蔵型コンピ° 供給口
- 13 操作パ° ネル
- 14 サイト° 照明
- 15 オン/オフスイッチ (操作パ° ネルは開)
- 16 ホッパ° -ロック

供給可能表示

- 17 エコモード°
- 18 メニューパ° ット° (メインメニューを開く)
- 19 飲料ボ° タン
- 20 スチ° ムジ° エットパ° ット°
- 21 ホットリンスパ° ット°
- 22 バ° リスタパ° ット°

パ° ネル上のパ° ット° やボ° タンは設定やマシンモデルにより異なります。
ここに画像表示する機能は例です。
ソフトウェア▷36° -ジ° 以降

取扱説明書の記号とマーク

 **安全上の注意事項 怪我のおそれあり**

安全上の注意事項に従わないと操作ミスにつながり、軽度から重度の怪我を負うことがあります。

 **警告**

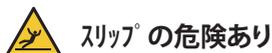
安全性についての章を参照
▷7⁶ -ジ以降

 **安全上の注意事項 怪我のおそれあり**

安全上の注意事項に従わないと操作ミスにつながり、軽度の怪我を負うことがあります。

 **注意**

操作に関する安全上の注意事項
▷24⁸ -ジ
安全上の注意事項 カタマ-カ7
▷82⁸ -ジ
安全性についての章を参照
▷7⁶ -ジ以降



 **物損についての注意事項**

- ・ コーヒーマシンに対して
- ・ 設置場所に対して
- > 必ず取扱説明書の指示に従ってください。

重要

保証の章に注意
▷117⁶ -ジ以降
テクニカルデータ
▷118⁶ -ジ以降

 **注意事項/ヒント**

- ・ 安全な取り扱いのための注意事項や、操作を容易にするためのヒントが記載されています。

注意事項

ヒント

用語集

用語	解説
•	• 箇条書き、選択オ [°] ション
*	* 各作業ステップ
斜字テキスト	コーヒーマシンの状態の説明および/または自動ステップ [°] の解説
AutoClean	完全自動クリーニング [°] システム
FFC	淹れたてフィルターコーヒー - 淹れたてのフィルターコーヒー
容量	例えば: 浄水フィルター処理能力 (ℓ)
挽いた豆のサイズ	▷ コーヒーが落とし、34 [°] -ジ
湿らし行程	香りを強く出すために、実際に抽出を行う前にコーヒーに少量の熱湯が注がれます。
硬度	°dKHで表示水の硬度は、飲料水に含まれるカルシウムの量を表します。
追加	コーヒー、ミルク、ミルクフォーム、チョコやトッピング [°] といった飲料用レシピ [°] の構成要素。
飲料供給	コーヒー、熱湯あるいはパ [°] ウタ [°] -飲料の供給
アイスコーヒー	淹れたてコーヒーを冷却して温度を下げます
カップ 検出	このオ [°] ションのセンサーは自動でカップ [°] の高さを計算します。このオ [°] ションでは、3種類のモード [°] から希望のものを選択できます。
コンビ [°] 供給口	標準仕様はダブル供給口オ [°] ションでシングル供給口もお求め可能。
セルフサービスモード [°]	セルフサービス
チョコ	ホットチョコレート
デ [°] カフェ	デ [°] カフェのコーヒー
バリスタ	コーヒーのスペ [°] シャリスト
パ [°] ウタ [°] -飲料	チョコやトッピング [°] など
プレス	抽出前の、挽いたコーヒーの自動プレス。
ミキサーシステム	パ [°] ウタ [°] -飲料用ミキサーとポ [°] -ショナーの総称
ミルクシステム	コンビ [°] 供給口、ミルクホース
メインコック	止水栓、アングル弁
リンス	中間的な洗浄

3 操作

3.1 操作に関する安全上の注意事項



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- 加熱フェーズ中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
 - > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ち、触れたりしないようにしてください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



健康被害のおそれ

- > 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
- > パウダーホッパー、コーヒー豆ホッパー、マニュアル投入口を使用する場合、用途に見合った材料のみを入れてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- ・ FFCのフタを設置するとき、手などを挟む危険があります。
- > FFCのフタは慎重に取り付けてください。

⚠ 注意



火傷の危険/火傷のおそれあり



- ・ 淹れたてフィルターコーヒーの供給中、熱い液体が流れ出ることがあります。その際は近くの表面が非常に熱くなります。



- > 飲料供給時は、FFCカップセルに触れないようにしてください。
- > FFCカップセルは飲料供給後すぐに触れないようにしてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 78ページ以降



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- ・ コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- > 稼働する供給口のエリアを握らないでください。
- > コーヒーグライндаーや抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。

⚠ 注意

3.2 その他書類

オプションによりシロップステーション

- ・ シロップステーションの取扱説明書をよくお読みください。
- ・ シロップステーションのクリーニング手引きをよくお読みください。

3.3 コーヒーマシンのスイッチを入れる

- ※ 操作パ° 祉を上 に動かす
操作パ° 祉の裏、右側にオン/オフスイッチがあります。
- ※ オン/オフスイッチを押す
コーヒーマシンのスイッチが入り、加熱がスタートします。
ホットリンスが自動的に始まります。
コーヒーマシンで飲料供給の準備が完了すると、パ° 祉に供給可能と表示されます。

コーヒーマシンはタイマーを使ってオン/オフできます。



PINアクセス管理

▷PIN 権限

62ℓ -ジ°

タイマーの入る時間を設定

▷タイマー

64ℓ -ジ°

3.4 ミルクまたはミルクフォーム

3.4.1 ミルクを接続する

WMF ミルククーラー搭載 (イ°ジ° -ミルク、ダ°イ°ミックミルク)

- ※ ミルク容器をクーラーから外す
- ※ ミルク容器のフタを後ろにずらす
- ※ ミルクをミルク容器に注入
- ※ フタを再び容器の上にセット
- ※ ミルクホースのアダ°プ°ターをミルク容器の蓋にある接続口に挿入
- ※ ミルク容器を慎重に押し戻す



ミルク容器

2 ミルク機能

マシンの接続部にミルクタイプ[®] が正しく接続されていることを確認してください。ミルク1とミルク2が逆になっていないか注意してください。



3.5 飲料供給

飲料ボタンを押すと、設定した飲料の供給が開始されます。

- ボタン点灯 = 供給可能
- ハットマークの点灯していないキー/赤い三角 = 供給不可/ボタンが無効

- * コffee供給口の下に適切なサイズのカップを配置
- * 希望の飲料ボタンにタッチします



飲料選択

ボタンライト
▷ 操作オプション
56ページ

飲料のキャンセル

- * タッチした飲料ボタンをもう一度タッチ

3.6 淹れたてフィルタコーヒー - FFC (オフショ)

新しい機能「淹れたてフィルタコーヒー」で、フィルターを通した淹れたてのコーヒーを供給できます。

この追加フィルターシステムを使って、オイルや沈殿物などのないコーヒーを淹れられます。原則、すべてのコーヒー抽出 (エスプレッソまたはカフェクレム) でフィルターを通して淹れることができます。



3.7 事前選択パッド (オプション)

バージョンによりますが、「2種類目のコーヒー」といったプレ選択パッドをディスプレイで利用できます。これらのパッドは、飲料ボタンで飲料を決定する前に希望する事前選択を行うための事前選択パッドです。



例:
2種類目のコーヒーパッド
▷40°-ジ

3.8 オプションのフィルター

バリスタパッドのように、機能メニューでディスプレイに表示できるオプションのパッドがあります。

ほかには、S/M/Lパッドなどがあります。飲料にS/M/Lの容量を設定することで使用可能です。

その後、飲料の選択前にカップ容量「S」または「L」を選択することができ、選択したサイズに対応している飲料ボタンだけが点灯します。

M = 設定した飲料サイズ、プレ選択なし

S = 約25% Mより少ない

L = 約25% Mより多い



例:
バリスタパッド



例:
S/M/Lパッド

3.9 カップサイズ調整

オプションとして自由なカップ容量の選択が可能です。設定により、飲料選択後のカップ容量を選択後のモードで調整できます。



3.10 熱湯供給

* 熱湯の供給口の下に適切なサイズのカップを配置

* 熱湯のボタンをタッチする

設定した供給オプションに応じて供給が始まります。



3.11 スチーム供給



火傷の危険/火傷のおそれあり



・ 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。



- ・ 加熱フェーズ中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
 - > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降



火傷の危険/火傷のおそれあり



- ・ 90 °C 以上の設定温度では、ミルクやミルクフォームが噴きこぼれるおそれがあります。
- > 容器の最大半分まで充填する。

⚠ 注意



- > ミルクを泡立てている時はミルクの量が減らないよう、過熱させないでください。

ヒント

3.11.1 オートスチーム(オプ°ション)

オートスチームオプ°ションで、ミルクの加熱または泡立てを行います。

スチームキーで直接ミルクを設定したフォームの品質になるまで泡立てます。または、最大3種類のフォーム品質レベルを選択して呼び出すことができます。

選択可能なミルクフォームの質:

- スタンド°ト
- ファイン
- スーパー°ファイ

さらに、オートスチームにはもう1つミルクキーがあります。

ミルクの加熱または泡立て

* 希望するミルクの量を高さのある細いコップに入れます

コップには最大で半分までミルクを入れるようにし、フォームするときにあふれないようにします。

* スチームノズルをミルクの中に浸す

* 希望するオートスチームホ°タを短く押す

オートスチームホ°タの割り当てに従って、スチームが噴射されます。

スチーム供給は設定温度に達するか、オートスチームホ°タを再度押すと終了します。

* スチームホ°タを短く押す

スチームパイ°内の残りを洗浄します。

* 湿らせた布でスチームノズルを拭く

3.11.2 イ°ジ°-スチーム(オプ°ション)

イ°ジ°-スチームのスチーム供給で飲料を温められます。

ミルクはマニュアルで空気を取り入れることでフォームを作ることができます。



スチームホ°タ



ホ°タの割り当て

▷ 操作オプ°ション

53°°°ジ°

レ°ピ°の変更

▷ 飲料

47°°°ジ°

3.11.3 スチームジ イットカップ ウォーマー



火傷の危険/火傷のおそれあり



- スチームジ イットカップ ウォーマーからは、高温のスチームが供給されます。そのため、カップとその周辺の表面が熱くなります。



- > 耐熱性のカップを使用してください。
- > スチーム供給前には、必ずカップを逆さまにしてカップウォーマーの上に置いてください。
- > 供給直後には周辺の表面に触れないでください。
- > 供給直後は供給口に触れないでください。
- > ドリップグリッドやカップウォーマーなしの状態では、スチームジ イット機能を絶対に使用しないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
 ▷ 78° -ジ 以降
 ドリップトレイは毎日クリーニング
 が必要
 ▷ 82° -ジ 以降



健康被害のおそれ/衛生面

- スチームジ イット機能はカップを温めるためのものですので、クリーニング用には使用しないでください。
- > カップを温めるときは、必ず洗浄して間もないカップをご使用ください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
 ▷ 78° -ジ 以降

スチームジ イットカップ ウォーマーは高温スチームによりカップを最大2個同時に温めることができます。

* カップウォーマーの上に、カップを下向きにして配置する

* パッド  をタッチする

高温のスチームが、下からゆっくりとカップの中に流れ込みます。

スチームは、最大で設定した時間分だけ流れ込みます。

* スチームジ イットパッドをもう一度タッチ

直ちにスチームの流れが止まります。



スチームジ イットパッド 有効/無効
 ▷ 操作ボタン
 54° -ジ

3.12 コーヒー 供給口の高さ調整

自動高さ調整

自動高さ調整では飲料によってカップ 高さが保存されます。飲料供給前にコーヒー 供給口が自動で最適な高さに調整されます。

調整範囲： 175 mm まで



カップ 高さ
▷518 mm -ジ

カップ 検出 (ボタン)

ボタンのカップ 検出で、設定にもよりますが、3種類のモード から希望のものを操作できます。

- 存在検知
- ボタン - カップ の高さに移動
- サイズ の事前選択

カップ 検出
▷システム
758 mm -ジ

3.13 コーヒー豆ホッパー - パウダーホッパー - ロック可能

- ホッパー - は、できるかぎり適時に補充してください。
- 製品の鮮度を維持するため、ホッパー - には最大でも一日分しか入れないでください。



- ! 異物が混入するとコーヒーグラインダー が破損するおそれがあります。このような損傷は保証対象外となります。
 - > 従って、コーヒー豆ホッパー - に異物が混入しないように注意してください。
 - > パウダーホッパー - に過度に充填しないでください。
 - > パウダー - は押し付けたり圧縮したりしないでください。

重要

保証の章に注意
▷1178 mm -ジ 以降

3.14 マニュアル投入口ロック可能

マニュアル投入口はコーヒーマシンの下の中央に取り付けられています。

マニュアル投入口の用途

- カフェインフリー等、異なる種類のコーヒーを淹れるとき
- 試しにコーヒーを淹れるとき
- クリーニング タブレットの投入口



タブレット洗浄剤投入口



- 挽いたコーヒーやクリーニング タブレットは 8° 以上で通知されてから投入してください。
- マニュアル投入の場合は、挽いたコーヒーのみを使用してください。
- インスタントコーヒーパウダーは使用しないでください。
- 挽いたコーヒーが細かすぎる場合は、使用しないでください。

重要

保証の章に注意
▷117 $^{\circ}$ -ジ以降

マニュアル投入口により挽いたコーヒーでコーヒーを淹れる

- * マニュアル投入口のフラップを開ける
- * 挽いたコーヒーを投入 (19 gまで)
- * マニュアル投入口のフラップを閉じる
- * 希望の飲料ホッタンにタッチします



マニュアル投入口

3.15 コーヒー受け

コーヒー受けには、使用済みの挽いたコーヒーが排出されます。コーヒー受けには抽出約50回分のコーヒーが収まるようになっています。

コーヒー受けを空にする必要がある場合、パ° 補上はその旨の通知が表示されます。

コーヒー受けが取り外されている間、飲料供給は不可能となります。

- * コン° 供給口を上げる
- * コーヒー受けを外す
- * コーヒー受けを空にして再びセット
- * プ° セスをパ° 補上で確定する



- コーヒー受けを空にせずに設置すると、コーヒーがあふれ出ます。コーヒーマシンが汚れ、マシンの損傷につながるおそれがあります。
 - > コーヒー受けを設置するときは、常に空の状態を設置してください。
 - > コーヒー受けを上手く設置できないときは、ダ° 外にコーヒーが残っていないかチェックし、残っている場合には取り除いてください。



コーヒー受けのクリーニング
▷ 手動クリーニング
94° -ジ°

重要

保証の章に注意
▷ 117° -ジ° 以降

3.16 コーヒー fallout (オ° ション)

コーヒーマシンにはコーヒー fallout を取り付けることができます。このタイプ° では、コーヒー受けとコーヒーマシンの底に開口部が設けてあり、現場のマシンカウンター台の開口部に続いています。コーヒーは、マシンカウンター台下にある個別容器へと排出されます。

重要

挽いた豆のスライド° を毎日クリーニング
▷ 手動クリーニング
94° -ジ°

3.17 ドリップトレイ



火傷のおそれ



- ・ ドリップトレイには高温の液体がたまっていることがあります。
- > ドリップトレイは慎重に動かしてください。
- > 再び設置するときには、水が不意にこぼれないように注意してください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78°-ジ以降
ドリップトレイは毎日クリンク®
加タマケア
▷82°-ジ以降



3.18 コーヒーマシンのスイッチを切る



衛生面に注意

- ・ コーヒーマシンの中で有害な細菌が繁殖することがあります。
- > コーヒーマシンのスイッチを切る前に必ず毎日のクリンク®を行ってください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78°-ジ以降
取扱説明書に従ってコーヒーマシンを
クリンク®してください。
加タマケア
▷82°-ジ以降



取扱説明書を確認

- ・ 取扱説明書の指示に従わずにマシンを使用して発生した損傷については、保証は適用されません。

重要

保証の章に注意
▷117°-ジ以降

- * 操作パネルを上にかかす
- 操作パネルの裏、右側にオン/オフスイッチがあります。
- * オン/オフスイッチを短く押す(約1秒)
- 続いてコーヒーマシンのスイッチがオフになります。
- * 主電源からプラグを抜く
- * 水道のメインコックを閉める



PINアクセス管理
▷PIN 権限
62°-ジ

4 ソフトウェア



- 飲料設定の際には、コーヒーマシンの操作についてのものと同様の安全上の注意事項に従ってください。
- > 操作についてのすべての安全上の注意事項に従ってください。

⚠ 注意

操作に関する安全上の注意事項
▷ 24℃ - 32℃

4.1 概要

供給可能

38℃ - 32℃



ホット/アイス
▷ 操作オプション
56℃ - 32℃

パネルのボタンやボタンは設定や
マシンモデルにより異なります。

機能ライン供給可能表示

38℃ - 32℃



スチームジェットカップウォーマー



エコモード (有効)



飲料サイズ (S-M-L)



ホットリンス



スチームボタン



バリスタ (コーヒーの濃さ)



2種類目のコーヒー (デカフェ)



熱湯



ミルクシステム補充



カップサイズ調整



栄養成分情報



2種類目のミルクタイプ

メインメニューの機能

41℃ - 73℃以降



カスタマーケア
41℃ - 73℃



飲料
44℃ - 73℃



操作オプション
53℃ - 73℃



インフォメーション
60℃ - 73℃



会計
61℃ - 73℃



PIN権限
62℃ - 73℃



タイマー
64℃ - 73℃



システム
68℃ - 73℃



言語
78℃ - 73℃



エコモード
79℃ - 73℃



USB
80℃ - 73℃

メニュー制御パッド



メインメニュー/戻る



値/設定の確定



PIN入力



値/設定の削除



次へ/開始



飲料テスト



設定のリロード



戻る



設定の保存



キーボード表示

パッド上の通知



メンテナンス通知



ミルク温度の表示 (オプション)

4.2 供給可能表示

パネルの供給可能表示は、コーヒーマシンのオプションや個々の設定によって異なります。

4.2.1 飲料ボタン

供給可能なすべての飲料ボタンで照明が点灯しています。

選択したキーレイアウトによってはパネル上を水平にワイプすることで他の飲料に進むことができます。

希望する飲料ボタンをタッチすると、飲料供給が開始されます。



例: カプチーノボタン
ボタンレイアウト
▷ 操作オプション
56ページ

4.2.2 機能ライン

熱湯ボタン

熱湯供給用熱湯ボタン。

設定によっては、熱湯ボタンを押した後、2種類の各飲料サイズで供給する熱湯を3つの異なる温度から選択可能です。

また、熱湯用の飲料ボタンが用意されている場合があります。



スチームジェットボタン

カップの温め。



スチームジェットボタン
▷ 操作オプション
54ページ

ホットリンスパッド

※「ホットリンスパッド」をタッチする

コーヒー管路に熱湯が流れてリンスが始まります。これによって抽出装置が加温され、最適なコーヒー温度が保証されます。

長い間抽出しなかった後で、特にエスプレッソを供給する前の使用をお勧めします。



ホットリンスパッド 有効/無効
▷ 操作オプション
54° -ジ

栄養成分情報

飲料毎の材料および栄養成分値情報の表示。



栄養成分情報
▷ 操作オプション
54° -ジ

カップサイズ調整

次の飲料の飲料サイズ選択。



カップサイズ調整
▷ 操作オプション
55° -ジ

S/M/Lパッド

飲料サイズのプログラム選択。事前に飲料を正しく設定する必要があります。



S/M/L
▷ ソフトウェア
▷ システム
74° -ジ

バリスタパッド - コーヒーの濃さ

	表示	コーヒーの濃さ
押さない	コーヒー豆2つ	ノーマル、設定通り
1回タッチ	コーヒー豆3つ	設定より15%濃い *
2回タッチ	コーヒー豆1つ	設定より15%薄め *

* 1回の抽出で使える挽いたコーヒーの最大量は19g
コーヒーの濃さを変更すると、その後1回の抽出分だけ濃さが変更されます。



バリスタパッド 有効/無効
▷ 操作オプション
53° -ジ

ミルクシステム補充

自動ミルクシステム補充。



ミルクシステム補充
▷ 操作オプション
56° -ジ

2種類目のコーヒー (デ カフェ)

- ※ まず「カフェインフリー」のマシナー外に「グライндаー」を割り当てます
- ※ 操作オプションで「カフェインフリー」を選択します
チェックの付いた豆のマークが機能バーに表示されます。
- ※ 飲料選択前に、このマークをタップします
次の飲料供給の準備では、カフェインフリーで
コーヒーグライндаーの豆を用意できます。



2種類目のコーヒー
▷ 操作オプション
57° -ジ

2種類目のミルクタイプ (オプション)

2つ目の種類のミルクを供給するオプションもあります。
たとえば低脂肪ミルクやソイドリンクです。



2種類目のミルクタイプ
▷ 操作オプション
55° -ジ

スチームボタン

スチームボタンで熱いスチームが排出され、飲料を温められます。
スチームボタンではミルクのフォームを作ることができます。



4.3 カスタマーケア



メニュー制御パッド
▷ 概要
36° -ジ
カスタマーケア
▷ 82° -ジ 以降
HACCPクリーニング コンセプト
▷ 103° -ジ 以降

システムクリーニング

システムクリーニング[®] の後にコーヒーマシンのスイッチを切る、切らないの選択が可能です。



システムクリーニング[®]
▷ カスタマーケア
85° -ジ 以降

ミキサーリンス

ミキサーリンスは中間的に行われるミキサーのクリーニング[®] です。



ミキサーリンス
▷ カスタマーケア
91° -ジ

ミルクシステムクリーニング

ミルクシステムクリーニング[®] は単独で開始できます。これはミルク飲料の供給をしばらく行っていないときに有効です。ミルクシステムクリーニング[®] ではミルクシステムクリーニング[®] を行います。



ミルクシステムクリーニング[®]
▷ カスタマーケア
89° -ジ

徹底システムクリーニング® (AutoClean)

これはミルクホースも対象としたシステムクリーニング®です。オプションで、システムクリーニング® 終了後に「電源を切る」または「電源を切らない」を選択できます。1日以上の間期間運転しない場合に、休止前に実施することをおすすめします。



徹底システムクリーニング®

FFC フィルター交換

フィルターは100回抽出ないし72時間経過後、交換が必要です。

* **FFC フィルター交換** をタップします
ディスプレイで操作手順が始まります。

* ディスプレイの案内に従います
このパッドをタップすると、現在使用中のフィルターであと何回抽出できるか、またはFFCのシステムクリーニング®を次はいつ実行すべきかを表示して確認できます。



FFC フィルター交換

FFCフィルター交換
▷ ケア
91° - ジ

フォームのリンス

フォームのリンスは中間的に行われるミルクフォームのクリーニング®です。



フォームのリンス

フォームのリンス
▷ カスタマーケア
90° - ジ

クリーンロック

* **クリーンロック** をタッチする
15秒間のカウントダウンが始まります。
この間にタッチパネルのクリーニング®を行ってください。
最後にタッチしてから15秒後に、タッチパネルが再び有効になります。



クリーンロック

操作パネルクリーニング®
▷ カスタマーケア
93° - ジ

説明

使用可能なクリーニングプログラム、ミキサーやクリーニング用コンテ供給口の脱着方法が画像で分かりやすく説明されます。



説明

クリーニング 間隔概要
 ▷77
 84° -ジ

ミルクシステム補充(ダ イミックミルク)

この機能により、ミルク飲料供給のためにミルクシステムを充填します。

※ **ミルクシステム補充** をタッチする



ミルクシステム補充

設定



設定

スイッチオフリス

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 最後にクリーニングを実行してからミルク飲料を供給している場合には、コーヒーマシンのスイッチを切る際に、スイッチオフリスを実行しなければなりません。

クリーニング後にミルクシステムを準備

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 ミルクシステムクリーニング後、マシンは通常オフになります。機能が有効になっている場合、ホーターはミルクコンテナのクリーニング後最大15分間再度電源を入れて使用できます。これで、コーヒーマシンは次回起動時に再度運転準備が整います。

4.4 飲料



概要

供給テスト

大半の飲料設定では、レシピを保存する前に新しい設定で飲料供給テストを行えるようになっています。



例: カプチーノボタン

- ※ 設定を希望通り変更
 - ※ 「供給テスト」パッドをタッチ
- 新しい設定値に従って飲料が供給されます。
- ※ 新しい設定値の飲料が満足いくものであれば、「保存」アイコンをタッチ
- レシピが保存されます。

レシピの保存

変更されたレシピが保存されます。



レシピをロードする

保存されているレシピが飲料ボタンにロードされます。



- ※ 飲料ボタンにタッチ
 - ※ 「レシピをロードする」パッドをタッチ
- サブメニューが開きます。
- ※ 希望するレシピをマークする
 - ※ 「レシピの保存」パッドをタッチ
- 飲料ボタンに新しく選択したレシピが割り当てられます。

カップ容量、複数倍の抽出と供給オプション



カップ容量

希望するカップ容量を設定します。レベルは適切に調節されます。

100%はこれまで保存されている値に相当します。

S-M-L機能

S/M/L機能は「システム」メニューで有効にできます。基本的に、どの飲料でもデフォルトのカップ容量に対する差分を操作オプションで変更することができます。

その他の各飲料では、S/M/L量はカップ容量オプションから変更でき、

各サイズを有効/無効に個別設定することもできます。無効にすると、各飲料のサイズを選択できなくなります。

S/M/Lを有効にして全飲料を変更

▷ソフトウェア

▷システム

74% -ジ

オプションのパート

▷操作

28% -ジ

カップ容量 S/M/L

レベルがSとLサイズのために作成されます。Mは設定通りとなります。

標準値:

S = 設定値より25%減量

L = 設定値より25%増量

	S	M	L
	72	97	122
	73	98	123
	74	99	124
%	75	100	125
	76	101	126
	77	102	127
	78	103	128

S - 有効
 有効
 L - 有効

飲料ごとにS-M-Lを変更

▷カップ容量

複数抽出

飲料は設定の複数倍抽出されます。ボタンを1回押すだけで、設定量の最大12倍までの供給ができます。コーヒーやミルク入りミックス飲料、供給タイプ「供給」の熱湯で利用できます。

供給ボタン

- **スタート・ストップ**
供給は設定量に達するまで行われます。途中で供給を中止するには、ボタンをもう一度押してください。
- **スタート・ストップ フリーフロー**
ボタンを軽く押すとスタート・ストップ 供給となります。ボタンを1秒間以上押すと、フリーフロー供給が開始されます。
- **フリーフロー**
ボタンを長押ししている間だけ、飲料やスチームが供給されます。
- **供給**
設定した量が供給されます。供給ボタンはミルク、ミルクフォーム、熱湯で表示されます。

供給ボタンでは、熱湯、ミルク、ミルクフォームの設定が可能です。

レシピの変更



メニュー制御パッド
▷ 概要
36° -ジ

☰
カプチーノ飲料設定

レシピの変更

現在のレシピ構成 :

<small>エスプレッソ</small> 9 g, 35 ml					
<small>フォームクリーム</small> 140 ml					

供給順序 → 176 ml 当たりのおおよその量

◀ 保管
栄養成分情報 ▶

追加物 初期値 :

コーヒー	ミルク	コールドミルク	ミルク一旦停止	フロッグ	一旦停止
エスプレッソ	ミルクフォーム	コールドフォーム	熱湯	フロッグ	

希望する追加物にタッチしたままドラッグします。

✕
|||
?
☰

現在のレシピ構成

レシピに含まれている追加オプションがここに表示されます。

作成手順は左から右に表示されます。上下に並んでいる追加オプションは同時に処理されます。

希望のオプションを技術上の理由により選択できないときは、ソフトウェアによって通知が出されます。

工場出荷時設定で用意されている追加オプション

レシピに追加できる追加オプションはここに表示されます。

※ 希望する追加物を選び、レシピ作成でもう一度希望する位置を押す

追加物がすぐに希望する位置に追加されます。

追加物の削除

マークのついた追加オプションを現在のレシピ構成から削除します。



追加オプションの変更

※ 追加オプションをマークし、「追加オプションの変更」をタッチ追加オプションの変更のメニューが開きます。
選択した追加オプションの設定オプションが表示されます。
保存されたデータと現在のデータが表示されます。



現在の値



サービスエンジニアによって保存された値



工場出荷時の設定値

コーヒー粉の量

単位:グラム(g)



水量/ミルクの量

単位:ミリリットル(ml)



FFC

ここでは、淹れたコーヒーをクーラーに通して冷却するかを設定できます。



アイスコーヒー

ここでは、淹れたコーヒーをクーラーに通して冷却するかを設定できます。



ダ イミックミルク ミルクフォームの仕上がり品質

ダ イミックミルク仕様のコーヒーマシンでは、各飲料に合わせてミルクフォームの仕上がりを調節できるようになっています。

1つの飲料に異なる仕上がりのミルクフォームを組み合わせることができます。

- しっかり** しっかりとしたミルクフォーム。ブ ラウンエッジ のカ プ チノやミルクフォームの見た目を重視する飲料で、バ ランスの取れたミルクの風味を出したいときに最適です。
- シルキ-** キメの細かいミルクフォーム。バ ランスの取れたミルクの風味を際立たせたいカ プ チノに適しています。理想的なコーヒ-とミルクの組み合わせ。
- クリーミー** つやのあるミルクフォーム。ミルクの風味のバ ランスが取れており、コーヒ-とミルクの組み合わせが良好なミルク飲料に最適です。
- ふんわり** 空気をたっぷりと含んだフワフワと軽いミルクフォーム。どちらかという粗い感じの泡でバ ランスの取れたミルクの風味が特徴です。

コーヒ-の品質

コーヒ-の抽出は、品質レベルによって変化します。品質レベルを高くするほど、抽出されるコーヒ-の香りと味が強まります。



品質レベル

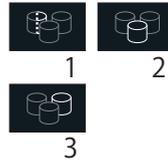
- 1 プ リス後、挽いたコーヒ-が水を含むようにするためのス プ リスが与えられます。
- 2 プ リス直後から抽出が始まります。
- 3 プ リス後、湿らし行程に入ります。
- 4 プ リスと湿らし行程後、ウェット プ リスをします。
- 5 品質4と同様ですが、さらに強くウェット プ リします。
- 6 品質5と同様ですが、さらに強く長めにウェット プ リします。
- 7 品質6と同様ですが、さらに強く長めにウェット プ リします。

注意事項!

抽出用熱湯がわずかな状態で非常に細かいコーヒ-粉を使用すると、品質レベルが高い場合は抽出用熱湯エラーが発生することがあります。

コーヒーグライнда[®]を選択

コーヒー粉の挽く分量全部は10に相当します。全分量は各種グライнда[®]-を合わせることができます。そのため、様々な個別のレシ[®]が可能です。



テキスト、画像、カップ[®]高さ



メニュー制御パッド[®]
▷ 概要
36A-ジ

「カップを検知」パッド[®]は、「存在検知」が有効になっている場合にのみ表示されます。
▷ カップセンサーを使った存在検知
▷ 51A-ジ

テキストと画像

ここで飲料の名称と飲料[®]の画像を設定します。
* キーボードパッド[®]にタッチしてキーボード[®]を有効にします

個別の飲料画像を読み込む
▷ USB
80A-ジ

備考

飲料についてのメモはここに保存できます。

カップの高さを手動で調整

飲料のカップの高さを調整ホイールで調整します。

- ※ 調整ホイールの高さを調整
 - ※ 右側にある、この高さを合わせたいカップマークをタップします
- 値がカップのマークに合わせられます。

サイズ「S」および「L」の飲料は、飲料ホッパ選択前にサイズを選択する必要があります。

カップセンサーを使った存在検知

カップ検出(ホッパ)

「存在検知」機能で、**カップを検知** パッドが表示されます。

- ※ カップを下に置きます
 - ※ **カップを検知** をタップします
- カップが検知されます。

検知されたカップの高さ調整を適用すると、ディスプレイの調整ホイールの上に表示されます。

飲料の選択時に供給口の存在検知が有効になっていると記録された高さに移動し、準備が整います。

カップセンサーによるサイズの選択

センサーはカップの高さを検知して、検知した高さが記録された値に一致すると飲料を供給します。

カップセンサーによるサイズの選択は、「サイズの選択」モードでのみ可能です。
▷ 76ℓ -ジ
許容カップ高さ
▷ システム▷ カップ検知
75ℓ -ジ

設定されているカップの高さS/M/Lを使用します

このパッドが有効になっていると、システムメニューのカップの高さが調整されます。

この機能が有効になっていると、高さは手動で調整できません。調整パネルは表示されなくなります。

S/M/Lは有効である必要があります。

▷システムを介してカップを設定

▷カップ検知

75° -ジ

ボタンの入れ替え

2つの飲料ボタンが入れ替わります。

* 飲料ボタンにタッチ

* 「ボタンの入れ替え」パッドをタッチ

* 入れ替える飲料ボタンにタッチ



ホットリンスパッド

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 供給可能になるとパッドが表示されます。

栄養成分情報

飲料毎の材料および栄養成分値情報の表示。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

栄養成分情報を更新する
▷システム
▷栄養成分情報
75° -ジ

メニューパッド

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 メニューパッドにタッチすると、メニューパッドが直ちに反応します。

無効 何もないところを二回押すとメインメニューに戻ります。

スチムジレット

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 供給可能になるとパッドが表示されます。

エラー表示

エラーはパネルのヘッドラインにおいて、様々な色で通知されます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 エラーはテキストでパネル上に表示されます。

カップサイズ調整

自由なカップ容量の選択を、操作オプションで有効にできます。

カップ容量は飲料選択の前に、使用するカップサイズに適合させることができます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

レギュラータ上のカップを右にずらすと、カップ容量が増加し、左にずらすとカップ容量が減少します。

カップ容量はパネル単位で表示されます。

レギュラータは中央 設定どおり100%

レギュラータは左端 50%減少

レギュラータは右端 50%増加



この機能はS/M/Lサイズ選択が有効の場合一緒に使用できません。

2種類目のミルクタイプ (オプション)

ここで2種類目のミルクタイプが有効になります。

2つ目の種類のミルクを供給するオプションもあります。たとえば低脂肪ミルクやソイドリンクです。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

言語別選択

飲料設定について、言語と国旗の別選択を可能にするかどうか、ここで設定します。「言語別選択」はここで有効にするか、キーアウト「SB+フラク」の選択により有効化可能です。

ホタルアウト「SB+フラク」
▷ホタルアウト
56° -ジ

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

ミルクシステム補充

この機能はミルクシステムを満タんにします。ミルクシステム補充はここで有効にできます。

ミルクシステム補充
▷カスターマー
43° -ジ

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 エラーはテキストでパネル上に表示されます。

ホタルアウト

種々の標準ホタルアウトがここに保存されており、選択できるようになっています。



ポットセレクション

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効

有効 飲料の選択後、コーヒーのタイプと飲料サイズを選択できます。

コーヒーのタイプの名称とサイズは変更できます。
(コーヒーのタイプとS/M/L)。

選択オプションは各種装備により異なります。

- サイズ 1、2、3
- ポットタイプ 1、2、3、4
- ミルクの種類 1、2
- コールド飲料
- シロップ 1、2、3、4 (オプション)

ヘルプメニューのために、いくつかの機能を無効にすることができます。

無効にしておくと、機能と該当するパッドが画面に表示されません。



ポットセレクション

ポットセレクション機能に使用するオプションをメニュー「システム」で有効にします。

システム
▷68ページ

カフェインフリー

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効

デカフェ係数

ここでデカフェ係数を入力します。

デカフェ(デカフェのコーヒー)のコーヒー粉の量は、レシピに設定されているコーヒー粉の量に対する割合で設定します。
この設定はあらかじめ「デカフェ」を設定すると、全てのコーヒー飲料に対して有効となります。

設定範囲: -25%から15%

標準値: 10%



カフェインフリー

デカフェ係数を15%にした場合、例えばカフェクレムの作成ではデカフェ機能により、挽いたコーヒーを15%増量して抽出されます。

飲料フ レレクション

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 事前に選択された飲料はさらに押さなくても供給されます。

ヘッドラインには「飲料フ レ選択有効」と表示されます。




飲料のキャンセル

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 飲料ホ ックを再度押すと、飲料供給を中断できます。

ミルクフォームの選択

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

ミルクフォーム選択はオートフォームオプションでのみ可能です。

口

メーカーの口

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 メーカーの口は準備完了パネルの右上に表示されます。

お客様の口

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 オプションが「有効」に設定されており顧客口が読み込まれている場合、顧客口は運転準備完了時にヘッドライン中央に表示されます。自動販売機と接続されている場合、顧客口が左に表示されます。この場合、口を両方表示することはできません。

お客様の口をロード

顧客口入りの USB スティックを挿し込みます。顧客口を読み込みます。

顧客口 (大)

口は最大 80 ピケルまで許容されます。それより大きい口は自動でこの大きさにサイズ変更されます。

4.6 インフォメーション

インフォメーションメニューの選択オプションは以下の通りです。



前回の抽出

前回の抽出に関するインフォメーション。



タイマー

1週間のタイマー設定が呼び出されます。ここにはすべてのスイッチオン時刻が表示されます。



サービス

WMF サービスの連絡先。
コーヒーマシンのシリアルナンバー。



カスタマーケア

コーヒーマシンのプログラムから行ったクリーニングとカスタマーケアの記録が表示されます。



浄水フィルタと加片除去

浄水フィルタの残り容量と次回加片抜きタイミングのインフォメーションが表示されます。

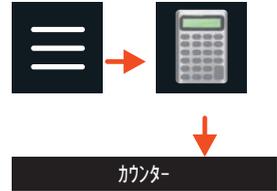


プロトコル

コーヒーマシン操作中やクリーニング中のイベントとエラーのジャーナル。



4.7 会計



カウンター

供給されたそれぞれの飲料のカウンターと合計飲料数が表示されます。

ジャーナルはUSB出力によって読みだすことができます。

会計		カウンター			
飲料	1	2	3	4	
2 エスア レッソ マックヤート	2	2	2	2	2
エスア レッソ	1	1	1	1	1

標準設定

カウンター 1 ~ 4 = 連続カウンター



各カウンターを個別にマニュアルでリセット可能です。
(例:カウンター 1 = 毎日、カウンター 2 = 毎週)

ヒント

自動販売機

自動販売機として使用する際の取扱説明書を参照してください。

外部会計

ライター会計取扱説明書を参照してください。

無料設定

無料設定は請求単位オプションと併せて使用可能です。



無料設定

すべて無料

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

飲料は無料

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

ディスプレイ表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここにテキストを表示できます。(例:「割引」)。入力されたテキストはヘッドラインに表示されます。

飲料ボタン表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここに飲料ボタン用テキストを表示できます。

4.8 PIN権限

下記のエリアではPINコードを設定できます。

- クリーニング
- 設定
- 会計



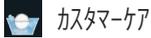
PINには序列が設けられています。

例えば、設定PINはクリーニングPINも兼ねますが、会計PINとしては無効です。

PINを割り当てないエリアは、PIN入力なしでアクセス可能です。PINを割り当てたレベルには、PIN入力なしではアクセスできません。

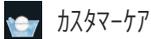
クリーニング PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：



設定PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：



ゴミ



タイマー



飲料



システム



操作オプション



言語



会計 (「削除」なし)



USB



会計PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：



ゴミ



PIN



飲料



タイマー



操作オプション



システム



会計 (「削除」あり)



言語



USB



会計 PIN を使用して他の PIN 番号を両方変更できます。会計 PIN を忘れた場合、サービス担当者によってのみ PIN をリセット可能です。

新しいPINを入力

アクセス許可 PIN が割り当てられたら、ここに PIN 番号を入力して新しい PIN を発行します。



4.9 タイマー

時刻/日付

ここでは現在の日付と時刻を設定します。

タイマー

ここで、タイマー機能をオン・オフを切り替えられます。

選択オプション: 有効 無効

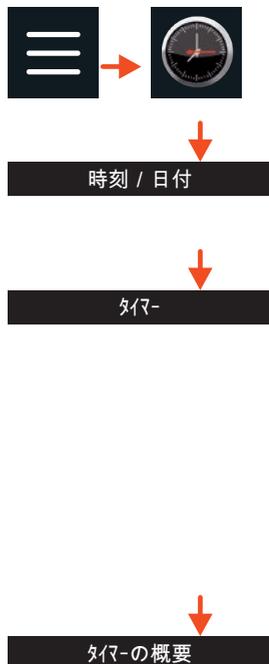
標準値: 有効

有効 タイマーの切り替え時間が有効になっています。

無効 タイマーの切り替え時間は作動しません。

タイマー予定表とタイマーの設定

すべてのオン・オフ時刻の概要



スイッチを入れる時間の変更は日別表示でのみ可能です。

タイマー削除

削除マークで、あらかじめマーク[®]していたタイマーを削除できます。



タイマー-日別概要

日間・週間予定表を切り替えます。日別概要には、当日のスイッチを入れる時刻が表示されます。



タイマーの入る時間を設定

タイマーを介してスイッチを入れられる以下の機能があります。

- ボタンリフト
- エコモード
- オン/オフタイマー
- AutoCleanクリーニング[®]



サイクル時間の変更は過去に遡って適用はされず、変更を行った日時以降の情報にのみ適用されます。

注意事項

- * 希望するタイマーの機能を選択します
- * 1日または複数の日にちを選択します
- * タイマー-スイッチ時間を設定します

スイッチを入れる時間はあらかじめ選択された日にちに対して設定されます。確定後は設定された切り替え時間による週間予定表が表示されます。個々の時刻はこの週間予定表の中で任意に変更できます。

AutoCleanクリーニング

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 AutoCleanクリーニングが「有効」に設定されている場合、AutoCleanのクリーニング時間を設定できます。クリーニングが自動開始するタイミングが設定されます。

マシンがクリーニング後スイッチを切るか、徹底システムクリーニングを開始するか選択します。また、ミルク飲料が徹底システムクリーニング完了後に解除されるかが設定されます。

-  > 所定の稼働日に対するオン/オフタイマーを作成します。
> この期間とクリーニングを組み合わせます。

例:営業時間 月～金 8時～18時。

> オン/オフタイマーとクリーニングを7:30～18:30に設定します。

1日以上運転しない期間が続く場合にはその前に徹底システムクリーニングを設定することをおすすめします。

ヒント

安全上の注意 カスターゲアに注意
▷82ℳ-ジ

安全性と保証
▷117ℳ-ジ

ホットレアウト

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 ホットレアウトをタイマーによって自動的に割り当てることができます。


ホットレアウト

モード

ここでは、モードのタイマー時間を設定可能にするかを設定します。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効


モード

サマタイム

ここでは、サマタイムに自動で切り替えるかを設定できます。

テレメトリモジュールが取り付けられていなければ、メニューを利用できません。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効


サマタイム

時刻帯

ここではタイムゾーンを設定できます。


時刻帯

4.10 システム

クーラー

ミルク保管温度

ミルク保管温度はここで入力します。
カップ・アンド・クールの使用時、例は 10 °C 以下。

お知らせ表示

(カムの警告機能を搭載したクーラーが必要)

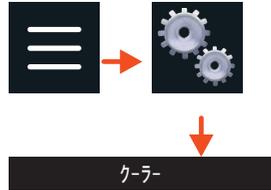
ミルクが空になった時に通知を起こすかをここで設定します。

空になった時の通知は、飲料ロックと関連づけられます。これは特にセルフサービスモードで重要です。支払われたばかりの飲料の完全な供給が保証されます。

温度センサー

(センサーを搭載したクーラーが必要)

ミルク温度が測定されます。



温度監視付
カップ・アンド・クールオプションで可能です。

品質チェック(ダ けミックミルク)

ミルクシステムでのミルク温度変更、ミルクフォーム量変更、ミルクフォーム品質変更が外的に影響することがあります。

「品質チェック」メニューで基本設定を再度行えます。

- * 青いクリーニング ホッパ[®] に冷水を満たす
- * ミルクフォームをつなげる
- * 容量が 500 ml の計量カップ[®] を供給口に置く
- * キャリア[®] レーションを開始する
- * 500 ml (+/- 20 ml) の計量カップ[®] がいっぱいになったら、キャリア[®] レーションは停止する



品質チェック

° ログ レス デ ィ ス プ レ イ

選択オプション: ライン、サークル、お

標準値: ライン



° ログ レス デ ィ ス プ レ イ

デ ィ ス プ レ イ と 照 明

照明

点灯色はここで設定します。

カーサークルの三角形で希望の色を設定してください。

RGB数値による色の設定も可能です。

その他の選択オプション:

- 色の変更 ゆっくり
- 色の変更 標準
- 色の変更 速く
- お

ただちに現在の設定が表示されます。



デ ィ ス プ レ イ と 照 明



供給可能の場合の照明

- 側板 標準色

イベントの表示 (通知)

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

コーヒー豆が空になっているというメッセージなど。

有効 メッセージ表示中、照明の調整ができます。

メッセージ (イベント)の照明

- イベントカー側板

パネルの照度

パネルの照度はここで設定します。

ディスプレイ照度は自動的に減少

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 照度減少が「有効」になっていると、飲料供給から5分後にパネル照度が自動的に減少します。

パネルの照度が暗くなっている状態でパネルに一度タッチすると、再び選択された照度に戻ります。その後もう一度飲料供給ボタンにタッチすると、その飲料の供給が始まります。

タッチキャリブレーション

タッチパネルのキャリブレーションを新たに行います。

パネルの背景

タッチパネルのカラーテーマを設定できます。

飲料:文字 + 色

ここで、文字サイズと色の変更を設定できます。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効

浄水フィルター

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効

有効 浄水フィルターが取り付けられています。フィルタの容量と水の硬度の入力が必要です。

硬度の計測

測定した水の硬度を°dKH単位で入力します。

炭酸硬度テストキットはアクセサリと共に送られます。



水の硬度を不適切に設定してコーヒーマシンを運転すると、多くの故障が発生し、バルブの密閉性が失われるおそれがあります。これにより損害が生じても保証は適用されません。

水硬度測定

※ 飲料水の水の硬度は、水道事業者に照会するか、付属品にあるWMF 炭酸硬度テスト(説明書付き)を使用して検出する



浄水フィルター

注意事項

弊社は原則浄水フィルターの使用を推奨しております。適切な浄水フィルターを選択につきましては、担当のWMFサービスパートナーがご相談に応じます。

注意事項

総硬度の計測

ここには総硬度を入力します。

フィルタ容量

フィルタ-範囲(単位:リットル)はここで入力します。

ソフト

ここではソフトを有効にできます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

スイッチ

オプションなし 30 min/60 min/90 min/120 min/
150 min/180 min 不可。

標準値:いいえ

温度

ここではボイラーの水温を設定します。
(コーヒー抽出水温度)



▷ソフト
79° -ジ



挽き目設定

挽き目はディスプレイ上で設定します。

- 挽き目ゲラインダ - 1
- 挽き目ゲラインダ - 2

小さい値 -> 細挽き

高い値 -> 粗挽き

0.25ごとに設定可能です。設定ごとに最大で半分の挽き目を設定できます。各設定を終えたら豆挽きを行います。

教育を受けた専門社員およびサービス担当者のみ使用可能。



挽き目設定

抽出圧表示

ここでは抽出圧表示を有効化できます。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効 無効



抽出圧表示

ポーション

ここでは使用する豆とパウダーの種類の名前を記録します。

通常、ここではエスプレッソとカフェクレムが対象です。



ポーション

2基のゲラインダ-と1基のパウダーホッパーを備えているマシンで有効です。

Bluetooth (オプション)

この機能ではオプションのWMF Bluetoothスティックが必要です。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効 無効

※ Bluetoothはここで有効にします

※ 操作パネルを開く

※ WMF Bluetoothスティックを操作パネルの背面に挿し込む

※ コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる



Bluetooth

S-M-L機能

ここではS-M-L機能が有効です。
マークとテキストは変更できません。
飲料サイズは標準サイズ(M)を基本にしますが変更可能です。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効

スモール

新たに有効にするサイズ[®]の飲料レシ[®]のデフォルト変更係数。

標準値: 75%

ラージ

新たに有効にするLサイズ[®]の飲料レシ[®]のデフォルト変更係数。

標準値: 125%

シロップ (オプション)

ここでは、シロップに名前を付けて、マークを割り当てることができます。

さらに、注ぐ量の選択を有効にできます
(シングル、ダブル、大)。

ミルク (オプション)

ここでは、ミルク1とミルク2に名前とマークをが割り当てられます。



S-M-L



カップ容量 S/M/L
▷ソフトウェア
▷飲料
45° - ジ

ヒント

飲料サイズ (S/M/L) はレシ[®]で定義付けし、飲料ボタンで直接利用可能です。



シロップ

シロップステーションに利用可能な詳細
設定オプション
▷シロップステーション取扱説明



ミルク

栄養成分情報

ここではグライタ[®]、ホ[®]-ショナ[®]、ミルク、ミルクフォーム毎に栄養成分値および材料に関する詳細情報が記録されます。概要が確認できます。


栄養成分情報

カップ 検出 (オ[®] ション)

カップ[®] のセンサーが供給口下に容器があるかを検知し、その高さを計算します。


カップ 検出

供給位置の訂正

設定範囲： -20 mm ~ +60 mm
- → カップ[®] との距離が小さくなります
+ → カップ[®] との距離が大きくなります
刻み： 5 mm
標準： 距離: 10 ~ 15 mm

許容カップ 高さ

S/M/Lが無効になっている飲料のカップ[®] の高さの許容範囲はここで調整します。

高さはレ[®] の飲料メニューで設定されます。ここで設定される許容範囲は、飲料が供給されるこの高さを正確に指定するものです。そのため、ここには必要な許容範囲が入力されます。

設定範囲： 0 mm ~ ±30 mm
刻み： 約 7.5 mm

モード

4種類のモードをここで設定します。

07

機能は無効になっています。

存在検知

カップのセンサーがノズル下に容器があるかを検知します。飲料が選択されると、ノズルが自動で選択した飲料に設定した高さまで移動します。

カップ 高さ設定
▷ソフトウェア
▷飲料
51° - ジ

07イス - カップ の高さへ移動

カップのセンサーが供給口下に容器があるかを検知し、その高さを計算します。続いて、ノズルが設定したカップの上部縁までのギャップになるまで移動します。

サイズ の事前選択

カップのセンサーが供給口下に容器があるかを検知し、その高さを計算します。この値に基づき、該当する飲料のみがディスプレイに表示されます。有効なS/M/Lのプレ選択でセンサーがこのプレ選択を適用します。

サイズ 設定S/M/L

「サイズ プレ選択」モード

ディスプレイには現在置かれているカップがマークで表示されます。

さらに、飲料サイズごとに最小設定カップと最大設定カップが表示されます。



水平ラインの両方が飲料サイズ間の境界を表しています。

矢印マークで、このラインをずらすことができます。

カップのサイズを削除

- ※  をタッチする
- ※ 希望するサイズか、または「全サイズ」を選択します
選択された項目が削除されます。
カップのサイズが削除されます。

カップのサイズを追加

- ※ 新たなサイズのカップを置きます
- ※ 希望するサイズ (S/M/L) を指定します
- ※  をタッチする

飲料のサイズ 表記変更
▷システム
▷S/M/L
74° -ジ

顧客のタブラー

このオプションは、SBE-ト[®]で顧客が再利用可能なタブラーを使えるようにするものです。
「顧客のタブラー」が有効になっていると、開始画面が変わります。
ここではカップ検知メニューで開始画像を希望のものに設定できます。



顧客のタブラーを使う場合の開始画像

「持込カップ」の使用

- ※ **持込カップ** をタップします
飲料選択ディスプレイが表示されます。
- ※ 希望する飲料を選びます
希望する飲料のサイズを尋ねられます。
- ※ 適切な飲料サイズを選択します
飲料が供給されます。

「店舗カップ」の使用

- ※ **店舗カップ** をタップします
飲料選択ディスプレイが表示されます。
- ※ 希望する飲料を選びます
カップセンサーは置かれたタブラーサイズを自動で検知し、
飲料がS/M/L設定に対応して指定されます。



飲料サイズのアプリ選択

デジタルソリューション

リモートアクション

WMF Coffee Connectで送られたパッケージメディアが直接インストールされていない場合は、ここで後から実行できます。

スマートリモート

WMFサービスはスマートリモートを有効化できます。その後、この機能をここで有効化できます。



デジタルソリューション

4.11 言語

パネル上で使用する言語を設定します。
使用できる言語が英語で表示されます。



4.12 コーヒー

コーヒーが「有効」になっているとき、最終の飲料供給終了から10分後にスチームの温度が下がります。飲料ポットは点灯したままです。温度が下がっている状態でミルク入り飲料を供給するときは、コーヒーマシン加熱のために15秒間ほど必要になります。飲料作成は加熱の後に始まります。



▷ コーヒー
72°C - 73°C

コーヒー

選択オプション: ・ お ・ お ・ タイマー

標準値: お

ここではコーヒーを有効にできます。



コーヒー 表示

供給可能表示では、ヘッドにコーヒーのアイコンが表示されます。2つのステータスがあります。

コーヒー「有効」

コーヒーマシンは現在温度低下段階にあります。



コーヒー「レイ」

コーヒーは待機時間に応じて制御され、最後に飲料供給してから10分後に有効になります。



クイックスタート

コーヒー設定が「有効」である場合には、コーヒーのアイコンが供給可能表示に表示されます。



アイコンにタッチする場合、コーヒーがすぐに有効になります。アイコンが「有効」に切り替わります。

4.13 USB

USB接続口からはデータの交換が可能です。
USBスティックが差し込まれると、機能がすぐに有効になります。
USB接続口は操作パネル裏側の左上の、カバーの背後にあります。



レシポをロードする

ここでは、USBスティックに保存されているレシポが
コーヒーマシンにロードされます。



飲料のマークをロードする

USBスティックから飲料の写真またはマークを読み込み
ます。



レシポの保存

ここではコーヒーマシンの最新のレシポがUSBスティックに
エクスポートされます。



レシポをPDFファイルとしてセーブする

有効なレシポ、すべての顧客レシポ、またはすべての工
場設定済みレシポをPDFファイルとしてエクスポートできます。



カウンターのエクスポート

ここではコーヒーマシンの最新のカウンターステータスがUSBスティック
にエクスポートされます。



HACCPイクスポート

実行されたクリーニングはプロトコルに記録され、ここに HACCP実施の証明としてイクスポートされます。



HACCPイクスポート

データのバックアップ

ここではマシンのデータ、飲料のデータ等の設定データが USBスティックに保存されます。



データのバックアップ

データをロードする

マシンデータや飲料データなどの保存されているデータは、USBスティックからコーヒーマシンにロードされます。(PINで保護可能)



データをロードする

言語をロードする

利用できる場合には、他のパシ言語をUSBスティックからコーヒーマシンにロードします。



言語をロードする

ファームウェアの更新

サービスエンジニア専用。



ファームウェアの更新

5 ｶｽﾀｰﾈｯﾄ

5.1 安全上の注意事項 ｶｽﾀｰﾈｯﾄ

ｺｰﾋｰﾏｼﾝが正常に作動し、ｺｰﾋｰの品質をいつでも最適なものにするためには、定期的なｸﾘｰﾆﾝｸﾞ[®]は不可欠となります。

健康被害のおそれ/衛生面

- ﾐﾙｸは非常に傷みやすい食品です。ﾐﾙｸｼｽﾃﾑの中で細菌が繁殖して健康に悪影響を与える恐れがあります。
 - > ﾐﾙｸｼｽﾃﾑは毎日ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ[®]してください。
 - > ﾐﾙｸﾎｰｽは定期的に交換してください。
 - > ﾐｯｶｰﾎｰｽは定期的に交換します。
 - > 全ての衛生面の注意事項に従ってください。
 - > HACCPｸﾘｰﾆﾝｸﾞ[®] ﾕﾈｽｸﾞﾙｯﾄに従ってください。

注意

安全性についての章を参照
▷7^{ページ}以降

健康被害のおそれ/衛生面

- 使用停止中のｺｰﾋｰﾏｼﾝの中で細菌が繁殖する恐れがあります。
 - > 数日間運転を停止する場合、運転停止前と運転再開時にすべてのｸﾘｰﾆﾝｸﾞ[®]を行ってください。

注意

安全性についての章を参照
▷7^{ページ}以降

健康被害のおそれ/衛生面

- すべての洗剤はｸﾘｰﾆﾝｸﾞ ﾍﾞｰｼﾞ用[®]に最適に調整されています。
 - > WMF ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ[®] 剤のみを使用してください。

注意

安全性についての章を参照
▷7^{ページ}以降



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- ・ クリーニング中にコヒ[®] 供給口と熱湯の供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- ・ 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > クリーニング中は、訓練を受けていないスタッフや子どもはコヒ-マシ[®]から距離をとるように注意してください。
- > クリーニングの前には、必ず「クリーニング」でタッチ[®] 袖をロックしてください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降



タ[®] 付ミルク

ミルクの割合を含んで飲料が 119 分全然供給されない場合、自動ミルクシステムリンスを起動して新しいミルクを補充します。

注意事項



注意事項

- ・ 次にコヒ-マシ[®]の電源を入れる際、ミルクが再充填されこれを以てクリーニングプログラムが完了します。

注意事項

5.2 クリーニング 頻度の概要

カスタマーケア						説明
毎日	毎週	定期的	自動			
クリーニング プログラム						▷85° -ジ以降
X				システムクリーニング (イージ -ミルク/ダ イミックミルク/AutoClean)	○	
	X			徹底システムクリーニング (AutoClean)	○	
X				クイック洗浄 (AutoClean)		
X				ミルクシステムクリーニング	○	
X			X	フォームのリンス	○	
X				ミキサーリンス *	○	
		X	X	FFC フィルター交換 *	○	▷91° -ジ
手動クリーニング						
X				操作パネルクリーニング (クリーンロック)	○	▷93° -ジ
X				コーヒー受けのクリーニング		▷94° -ジ
X				トリップトレのクリーニング	○	▷94° -ジ
X				ハウジング とカップ センサーをクリーニング		▷95° -ジ
	X			ミルクシステムをマニュアルでクリーニング (イージ -ミルク)		▷95° -ジ
	X			ミルクシステムをマニュアルでクリーニング (ダ イミックミルク)		▷97° -ジ
(X)	X			ミキサーのクリーニング *	○	▷97° -ジ
X	X			スチームノズルのクリーニング	○	▷98° -ジ
		X		コーヒー豆ホッパーのクリーニング		▷100° -ジ
		X		パウダーホッパーのクリーニング *		▷101° -ジ



▷91° -ジ

▷93° -ジ

▷94° -ジ

▷94° -ジ

▷95° -ジ

▷95° -ジ

▷97° -ジ

▷97° -ジ

▷98° -ジ

▷100° -ジ

▷101° -ジ

- 毎日 = 最低毎日1回、必要に応じて随時
- 毎週 = 毎週1回クリーニング
- 定期的 = 必要に応じて定期的に実施
- 自動 = 自動プログラム
- (X) = 汚れがひどい場合は毎日
- * = オプション(装備により異なる)
- 説明 = メニューの説明 ▷「ソフトウェア」▷「カスタマーケア」使用可能

5.3 クリーニングプログラム

5.3.1 システムクリーニング

システムクリーニングは様々なステップを用意する自動クリーニングプログラムです。使用用途に応じてコーヒー/ミルク/ウタ-システムをクリーニングします。これはミルクシステムクリーニング、ミキサー-リンス、コーヒーシステムとミルクシステム用の2種類の異なるWMFクリーニングタブレットを使用する場合に関わります。おオプションのFFCとアイスコーヒー機能は必要に応じてシステムクリーニングの一部として同様にクリーニングされます。

動画による説明

- ▷メインメニュー
- ▷カスタマーケア
- ▷説明
- ▷シロップステーションのクリーニング手引き



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- クリーニング中にコップ供給口と熱湯の供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



クリーニングプログラムはパネルによってシステムクリーニングの各ステップをガイドします。
表示される通知に従ってください。

注意事項

システムクリーニング (イージ -ミルク/ダ イミックミルク)



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- クリーニング中、熱いクリーニング液がホッパー内に注がれます。
> クリーニングホッパーはクリーニング後に注意して中身を空にします。



クリーニングホッパーは熱いままクーラーに置いてはなりません。クーラーが破損する恐れがあります。

イージ -ミルク/ダ イミックミルク仕様のコーヒーマシンのシステムクリーニングでは、クリーニングに青色の特別なクリーニング容器が必要です。

開始

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **システムクリーニング** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

システムクリーニング (AutoClean)

毎日のシステムクリーニングはAutoCleanにより完全自動で行われます。青いクリーニングコンテナはこの時にはもう必要ありません。

マシンは必要な量のクリーニングタブレットを完全自動で投入します。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
 - * **システムクリーニング** をタッチする
 - * パネルに表示される指示に従って操作
- オプションで、システムクリーニングはタイマー設定が可能です。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

重要

保証の章に注意
▷117ページ以降



AutoCleanクリーニング
▷ソフトウェア
▷タイマー
66ページ

徹底システムクリーニング (AutoClean)



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- プラグアンドクリーンアダプターがクリーニングなし洗浄中に外されると、熱湯やスチームが漏れ出すことがあります。
- ▷ プラグアンドクリーンアダプターを、クリーニングなしクイック洗浄中に引き抜いてはいけません。

開始

週に一度、または休止期間が1日より長く設けられる場合は、徹底システムクリーニングを実施する必要があります。

- * カスターケアメニューを呼び出す
 - * **徹底システムクリーニング** をタップします
 - * パネルに表示される指示に従って操作
 - * コテナのミルクホースを取り外します
 - * ミルクホースをマシンのプラグアンドクリーンソケットにつなぎます
- マシンは必要な量のクリーニングタブレットを完全自動で投入します。
- オプションで徹底システムクリーニングはタイマー設定が可能です。



プラグアンドクリーンとミルクホースの正しい取り付け箇所にご注意してください。

注意

安全性についての章を参照
▷76ページ以降



注意事項

安全性についての章を参照
▷76ページ以降

保証の章にご注意
▷117ページ以降

クイック洗浄 (AutoClean)



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- プラグアンドクリーンアダプターがクリーニングないし洗浄中に外されると、熱湯やスチームが漏れ出すことがあります。
- プラグアンドクリーンアダプターを、クリーニングないしクイック洗浄中に引き抜いてはいけません。

週に一度、ミルクホースをクイック洗浄で洗浄してください。

* コンテナのミルクホースを取り外します

* ミルクホースをマシンのプラグアンドクリーンソケットにつなぎます
クイック洗浄は、プラグアンドクリーンアダプターをロックすると自動的に開始します。

クイック洗浄が完了すると、プラグアンドクリーンソケットのLEDが点滅します。



接続されている間は、新しいミルクが供給される度に、クイック洗浄が実施されます。

時間: 1~2分



プラグアンドクリーンとミルクホースの正しい取り付け箇所にご注意してください。

注意

安全性についての章を参照
▷76ページ以降



ヒント

注意事項

安全性についての章を参照
▷76ページ以降

保証の章にご注意
▷117ページ以降

5.3.2 ミルクシステムクリーニング



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- リンス中はコック 供給口から熱湯が出ます。
- > リンス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

ミルクシステムクリーニングは単独で開始できます。これはミルク飲料の供給をしばらく行っていなかった時に有効です。

ミルクシステムクリーニングではミルクシステムクリーニングを行います。イージ -ミルク/タ イミックミルクを搭載したコーヒーマシンでのミルクシステムクリーニングでは、クリーニングにブルーの特殊なクリーニング コンテナが必要です。

専用のクリーニング タブレットを使用してください。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **ミルクシステムのクリーニング** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 7ページ以降

動画による説明

- ▷ メインメニュー
- ▷ カスタマーケア
- ▷ 説明



5.3.3 フォーマーのリンス



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- ・ リンス中はコップ供給口から熱湯が出ます。
- リンス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

イージ-ミルク搭載コーヒーマシンには必要に応じて開始できるフォーマーリンスがあります。また、ミルクフォーマーのリンスも自動的に行うことができます。最後のミルク飲料供給が終わって3分経つと、自動で開始します。自動的にミルクフォーマーのリンスが始まる前に、ブザー音が鳴ります。ミルクフォーマーのリンスが有効になっているときは、飲料の入ったカップをコップ供給口の下に置かないでください。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **フォーマーのリンス** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

動画による説明

- ▷メインメニュー
- ▷カスタマーケア
- ▷説明

5.3.4 フォーマーのリンス(ダイナミックミルク)

ダイナミックミルク仕様のコーヒーマシンでは、ミルクフォーマーの自動リンスは2時間ごとに行われます。

5.3.5 ミキサー-リンス



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- ・ リンス中はコック供給口から熱湯が出ます。
- > リンス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

ミキサーのリンスは単独で開始できます。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **ミキサー-リンス** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページの以降

動画による説明
▷メインメニュー
▷カスタマーケア
▷説明

5.3.6 FFCフィルター-交換



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- > フィルターを通してコーヒーを淹れた直後はフィルター-カプセルが高温になっています。
- > フィルター-カプセルは交換前に少し冷ましてください。

フィルターは100回抽出ないし72時間経過後、交換が必要です。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
 - * **FFCフィルター-交換** をタップします
- ディスプレイで操作手順が始まります。
- * ディスプレイの案内に従います
- このメニューでは、現在使用しているフィルターであと何回飲料を淹れることができるか、フィルター-交換まであと何時間残っているかを表示できます。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページの以降

5.4 クリーング タブレットを補充する (AutoClean)

コーヒークリーング 顆粒

- ※ マニュアル投入口のフリップを開ける
- ※ 緑色のフリップを前にまくります
- ※ 顆粒計量装置をマシンから取り出し、上下逆さにします
- ※ 回転動作で計量装置を開きます
- ※ 空になったクリーング 顆粒のパックを取り出し、新しいパックを設置します



ミルクシステムクリーナー

- ※ 空になったミルクシステムクリーナーボトルのクリーングアダプターを外します
- ※ WMFミルクシステムクリーナーの新しいボトルをつなぎます



5.5 手動クリーニング

WMFカスタマーケア® のための注
文番号
▷ アクセサリーとスプーン
122° - ジ

5.5.1 操作パッドのクリーニング (クリーンロック)

※ **クリーンロック** をタッチする

15秒間のカウントダウンが始まります。

この間にタッチパッドのクリーニングを行ってください。

最後にタッチしてから15秒後に、タッチパッドが再び有効になります。



火傷のおそれ

- 誤って飲料が供給されてしまうと、怪我のおそれがあります。
- > クリーニングの前には、必ず「クリーンロック」でタッチパッドをロックしてください。

注意

安全性についての章を参照
▷ 78° - ジ 以降



- クリーニング中にパッド表面に傷をつけるおそれがあります。
- > パッドは必ず湿らせた布でクリーニングしてください。洗剤は使用しないでください。
- > クリーニングには柔らかい布を使用してください。
- > 湿らせたマイクロファイバークロスの使用をお勧めします。

重要

保証の章に注意
▷ 117° - ジ 以降

5.5.2 コーヒーが受けのクリーニング (挽いた豆の スライド / オプション)

- * コーヒーが受けを空にし、流水で洗浄
- * 湿らせた布でクリーニングする
- * コーヒーが受けは乾燥させてから再び設置する



- > コーヒーマシンのシューターとドリップトレイの目皿を毎日クリーニングしてください。
- > 絶対に力を入れないでください! 破損のおそれがあります。

重要

保証の章に注意
▷117ページ以降

5.5.3 ドリップトレイのクリーニング



火傷のおそれ



- ドリップトレイには高温の液体がたまっていることがあります。
- クリーニング後などでドリップトレイを正しくはめ込んでいない場合、高温の液体で火傷を負うおそれがあります。
 - > ドリップトレイは慎重に動かしてください。
 - > 再び設置するときには、水が不意にこぼれないように注意してください。
 - > ドリップトレイが正しく取り付けられているか、必ず確認してください。

- * ドリップトレイの前部外側を軽く持ち上げてドリップトレイを外す
- * ドリップトレイを入念にクリーニング
- * ドリップトレイを最後に清潔な飲料水でリンスする
- * ドリップトレイを乾かし、元の位置に装着

注意

安全性についての章を参照
▷76ページ以降



手順
▷ソフトウェア ▷カスタマーケア
43ページ以降

ドロップステーションのオプションを使う
▷ドロップステーションのクリーニング手順

5.5.4 ハウジングとカップセンサーをクリーニング



- クリーニング中にパッド表面に傷をつけるおそれがあります。
- > 研磨剤の類はクリーニングで使用しないでください。
- > 低刺激性洗剤だけを使用してください。
- > 強アルカリ性やアルコールを含んだ洗剤、または脱脂洗剤は使用しないでください。
- > クリーニングには柔らかい布を使用してください。
- > 湿らせたマイクロファイバークロスの使用をお勧めします。

金属表面(マット加工)の手入れには、WMF Puragan®クリーナーの使用をお奨めします。

- * オノ/オのスイッチでコーヒーマシンのスイッチを入れます
- * コーヒーマシンはクリーニングの前に冷ましてください
- * 冷ましたコーヒーマシンの外装を湿らせたでクリーニングする
- * 柔らかいタオルで乾拭きします
- * センサーを湿った布でクリーニングします

5.5.5 ミルクシステムをマニュアルでクリーニング

ミルクシステムをマニュアルでクリーニング (イージ - ミルク)



火傷のおそれ

- 誤って飲料が供給されてしまうと、怪我のおそれがあります。
- > クリーニングの前には必ずコーヒーマシンのスイッチを切ってください。
- > 主電源からプラグを抜く。

重要

保証の章に注意
▷117ページ以降

注意事項

耐性に問題があるため、アルカリ性洗剤は使用しないでください。アセトン、炭素、四塩化炭素、塗料用シンナーまたは5%を超えるアルコールを含む溶液、アセトン、ベンゼン、グリセリン、キシレン、研磨剤、脱脂洗剤、ガラス用の強力な噴霧式洗浄剤のような溶剤も使用しないでください。

パッドは必ず湿らせた布でクリーニングしてください。洗剤は使用しないでください。

注意

安全性についての章を参照
▷76ページ以降

動画による説明

- ▷メインメニュー
- ▷カスターケア
- ▷説明



健康被害のおそれ

- WMFミルクシステムの洗剤が目に入ると、目に深刻な傷を負う恐れがあります。
- > WMFミルクシステムの洗剤が絶対に人や動物の目に入らないようにしてください。



- > 手作業でミルクシステムの清掃を行う前に、ミルクシステムのシステムクリーニング[®]を実行する必要があります。システムクリーニング[®]により、システム内に残るミルクの残りを取り除きます。

- * コルビ[®] 供給口背後のレバー^①を引く
 - * 解除したコルビ[®] 供給口を取り出す
 - * ミルクホースとミキサーホース^①を外す
 - * 5 mlのWMF特製クリーナーまたは専用のクリーニングタブレットを500 mlの温水に混ぜます
 - * コルビ[®] 供給口を分解
 - * コルビ[®] 供給口の部品をクリーニング液の中に入れる (3部品)
- すべての部品がクリーニング液の中に完全に浸っていないとなりません。
- * 5時間経ったら、ブラシですべての部品を入念にクリーニングする
 - * コルビ[®] 供給口のすべての部品を清潔な飲料水で入念にリンスする
 - * ミルクホースとミキサーホース^①をていねいにすすぐ
 - * ミルクホースとミキサーホース^①を取り付ける
 - * コルビ[®] 供給口を組み立てる
 - * コルビ[®] 供給口を装着
- ^①ミキサーホースはミキサーを搭載したコーヒーマシンでのみ使用可能です。

注意

安全性についての章を参照
▷77ページ以降

重要

保証の章に注意
▷117ページ以降



コルビ® 供給口の手動クリーニング® (ダ イミックミルク)

! ダ イミックミルク仕様のコーヒーマシンのミルクフォーマーは取り外しできません。

定期的にコルビ® 供給口の汚れを軽く湿らせた布で拭き取り、供給口を適切なブラシでクリーニング® してください。

プラグアンド クリーンソケットを洗浄する (AutoClean)

プラグアンド クリーンソケットを必要に応じてブラシで清掃します。

5.5.6 ミキサのクリーニング

使用するパ ウダ - に応じて、頻繁に清掃します。

! 火傷のおそれ

- ミキサホスがしっかりと差し込まれていないと、熱湯や高温のパ ウダ - 飲料が不意に流れ出ることがあります。
- > ミキサホスはしっかりと差し込んでください。

- * 操作パ ンを上に動かす
 - * コルビ® 供給口のミキサホスを引き、グリップ® を持ってミキサカップ® を上にあげます
- これでミキサの羽根車が見えます。

毎日

- * ミキサカップ® を取り外す
- * ミキサカップ® を4つの部品に分解する
- * 部品は流水で入念に洗浄する

必要に応じて (毎週)

- * 5 mlのWMF特製クリーナーまたは専用のクリーニング® タブレットを500 mlの温水に混ぜます

重要

保証の章に注意
▷117ページ以降

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

説明
▷メインメニュー
▷カスタマーケア
▷説明



- * 4つの部品はすべて少なくとも4時間はクリーニング液に浸す
- * 4時間経過後、再度流水で入念にすすぐ
- * パウダホッパーを外し、ミサカップの投入口をクロスまたはブラシでクリーニングする

* 全ての部品を完全に乾かす [1]

 組み立てにあたっては、全ての開口部が必ず同じ方向を向くようにしてください。

- * ミサホイール [2] を図のように配置します
挿入後に緑色の側面が見えます。
- * ミサカップにミサホスを差し込む
- * かつとロックされるように、ミサカップを再度設置する
- * ミサホスをコック供給口に挿入



5.5.7 オートスチームスチーマーのクリーニング

火傷の危険/火傷のおそれあり

- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- 加熱フェーズ中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
 - > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 供給中は必ず適切な飲料容器を下に配置します。

注意

説明

- ▷ メインメニュー
- ▷ カスターゲア
- ▷ 説明

毎日

- * 5 mlのWMF特製クリーナーまたは専用のクリーニングタブレットを500 mlの温水に混ぜます
- * スチームノズルを洗浄液に浸けて、スチームキまたは自動スチームキを短くタップします

浸置時間: 30分

- * ブラシでクリーニング
 - * 水で入念に洗浄
 - * スチームホーンをタッチする
- スチームにより、スチームノズルの穴から分解された残留ミルクが取り除かれ、残っている洗剤が除去されます。



毎週

- * スチームノズルを回して外す
- * スチームノズルを最低5時間は洗浄液に浸けます
- * ブラシでクリーニング
- * 冷水で入念に洗浄する
- * スチームノズルをオートスチーム供給口にねじ締めます
- * スチームノズルを清潔な水が入った容器に入れる
- * オートスチームホーンを短く押す
- * 湿らせた布でスチームノズルを拭く



5.5.8 コーヒー豆ホッパーのクリーニング

コーヒー豆ホッパーは必要に応じて定期的にクリーニングしてください。推奨：毎月1回。

怪我のおそれ

- 長い髪の毛はグライндаーに巻き込まれ、コーヒーマシンに引き込まれるおそれがあります。
- > 髪の毛は、必ずヘアネットを被って保護してください。

 注意

指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり

-  コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- > コーヒーグライндаーや抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。

 注意

-  > コーヒー豆ホッパーは絶対に食器洗い機で洗浄しないでください。

重要

- * 操作パネルを上にかす
操作パネルの裏、右側にオン/オフスイッチがあります。
- * コーヒーマシンのスイッチがオフになるまで、オン/オフボタンを押す
- * 主電源からプラグを抜く
- * 豆ホッパーのロックを180°回し、開く



ロックを180°回す

- * コーヒー豆ホッパーを持ち上げて外す
- * コーヒー豆ホッパーを完全に空にし、軽く湿らせた布巾で丁寧に汚れをふき取る
- * コーヒー豆ホッパーを完全に乾かす
- * コーヒー豆ホッパーに豆を投入して元通り装着
- * 豆ホッパーのロックを180°回し、閉じる



5.5.9 パウダーホッパーのクリーニング

パウダーホッパーは必要に応じて定期的クリーニングしてください。

推奨: 毎月1回。

使用するパウダーに応じて、頻繁に清掃します。

- * 操作パネルを上に動かす
操作パネルの裏、右側にオン/オフスイッチがあります。
- * コーヒーマシンのスイッチがオフになるまで、オン/オフボタンを押す
- * 主電源からプラグを抜く
- * パウダーホッパーのロックを180°回し、開く
- * パウダーホッパーを後に傾け、持ち上げて外す
- * パウダーホッパーを完全に空にする



- ※ 前後のニオンナットを外す
- ※ ホーシヨナーのスクリーを引き出す
- ※ ハ°ウタ°-ホッパ°-に付着した汚れを軽く湿らせた布巾で丁寧にふき取る
- ※ ホーシヨナーのスクリー-の個々の部品を入念にクリーニング
- ※ ハ°ウタ°-ホッパ°-と個々の部品を完全に乾燥させる
- ※ ホーシヨナーのスクリー-を再び組み立てて設置し、ニオンナットを締める



ホーシヨナーと個々の部品。ホーシヨナーのスクリー-

! 排出口が正しい位置にきていることを確認してください。

- ※ ハ°ウタ°-ホッパ°-にハ°ウタ°-を充填して元通り装着
- ※ ロックを180°回転させて、再度閉めます

重要

6 HACCPクリーニングコンセプト

飲食店経営者には、来店するお客様が健康被害のおそれにさらされないことがないように、提供する食品への注意が法的に義務付けられています。危険の認識・判定のため、HACCP (Hazard Analysis Critical Control Points) クリーニングコンセプトの導入が必要になります。このマシンの使用場所でリスク分析を行うようにしてください。分析の目的は、食品衛生面で危険な個所の確認と解消にあります。そのためにはモニター・検査工程を定め、実施する必要があります。

設置状態が適切で、ガタマケやメンテナンス、クリーニングが正しく行われている場合、WMFコーヒーマシンは上記の条件を満たした状態となっています。コーヒーマシンのガタマケとクリーニングが適正になされていない場合には、供給されるミルク飲料は食品衛生の面から危険があります。

HACCPクリーニングコンセプトの要件を満たすために、以下の項目をお守りください。

ミルクシステムを毎日消毒

- ガタマケの章にあるミルクシステムのクリーニングについての指示に従ってください。これにより、業務開始時にシステムに細菌がない状態を確保できます。



インフォメーションパッド  からは前回のクリーニングのプロトコルを呼び出すことができます。
USBパッド  から、HACCPジャーナルをエクスポートできます。

「1997年8月5日 食品衛生指令」

日常のクリーニング評価に当社のHACCPクリーニングコンセプトをご活用ください。

HACCPエクスポート
▷81° -ジ

WMFが認可した洗剤のみを使用してください。

ガタマケの章を参照
▷82° -ジ以降

ヒント

業務開始時は常に新たに開封した冷蔵ミルクを使用

- 未開封のロングライフミルクは通常細菌は存在しません。業務開始にあたっては常に冷蔵しておいたミルクパックを新しく開けてお使いください。
- ミルクパックを開封する時には衛生面に特に注意してください。汚れた手やツールに付着した細菌が、ミルクパックを開く際に入り込むことがあります。

ミルクは冷蔵してください!

- 必ず冷蔵した予備の新しいミルクパックを用意しておいてください。
- ミルククーラーを使わずにマシンを使用するときは、ミルクをできるだけ早く使い切ってください。必要に応じてミルクを時々冷やしてください。
- 冷蔵していたミルクを開封後少ししか使わないときは、業務中も冷蔵してください。

推奨:

乳脂肪分1.5%のロングライフ牛乳を使用してください。

営業開始時のミルク温度は約6~8℃になっていなければなりません。

設定によっては1リットルのミルクで約20杯分のกาแฟノを作れます。

WMFは各種クーラーオフションを用意しています(例: WMF 注文クーラー)。

HACCPクリーニングコンセプト

月 _____ 年 _____

冷蔵されたロングライフのみを使用してください。これを守らないと、微生物や細菌により健康に被害がおよぶ恐れがあります。

パッケージ飲料に使用するパッケージには必ず賞味期限内のものを使用してください。

クリーニングステップ:

- システムクリーニングを実施
 - 取扱説明書、章「カスタマーケア」
- ミルクシステムをマニュアルでクリーニング (イージー-ミルク)
 - 取扱説明書、章「カスタマーケア」
- 毎日のメンテナンス
 - 取扱説明書、章「カスタマーケア」
- 3a. 4時間運転後のミルクシステムクリーニングまたはコンベ供給口の交換(流量が少ない場合やミルクが冷却されない場合には必ず行ってください)
 - 3b. タイミングのためのコンベ供給口を定期的に外から清掃します。
 - 3c. 毎週のミキサークリーニング および製品おぼ(豆/パッケージ)の定期的クリーニング
 - 取扱説明書、章「カスタマーケア」
- 一般的なマシンのクリーニング

□	クリーニング ステップ				署名
	時刻				
	1	2	3	4	
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					
11.					
12.					
13.					
14.					
15.					
16.					

□	クリーニング ステップ				署名
	時刻				
	1	2	3	4	
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					
31.					

7 メンテナンスと加味除去

本コーヒーマシンは業務用のため、定期的にメンテナンスと加味除去作業が必要となりますのでご注意ください。

メンテナンスの時期はコーヒーマシンの使用期間により決まり、パネルに通知されます。WMF サービスによるメンテナンスでは、同時に抽出装置の加味除去も実施されます。

コーヒーマシンは通知表示後も使用できますが、コーヒーマシンの機能異常や二次的な損傷を防ぐためにもお客様自ら早めにメンテナンスを行うか、メンテナンス作業の実施を依頼してください。

7.1 メンテナンス

パネル上に通知が表示されたあとのメンテナンスは、WMF サービスまたは必要なトレーニングを受けた作業員以外は行わないでください。
メンテナンスレベルは以下のようになっています。

サービス・メンテナンス通知
▷メッセージと注意事項
107ページ

- パネル上に通知が表示されたあとのメンテナンスは、WMF サービスまたは必要なトレーニングを受けた作業員以外は行わないでください。

サービス・メンテナンス通知
▷メッセージと注意事項
107ページ

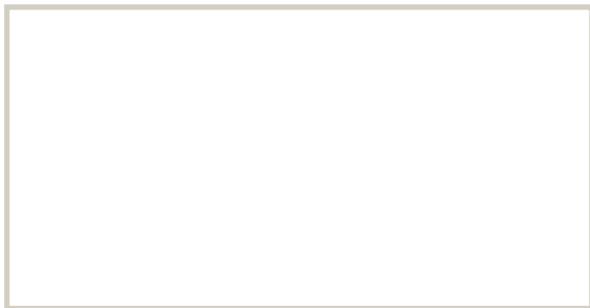
7.2 WMF サービス

WMF サービスにつきましては、お近くの修理センターが不明な場合は下記にお問い合わせください。

WMF GmbH
WMF Platz 1
D-73312 Geislingen (Steige)

重要!

メンテナンス、修理などにつきましてはお近くのWMF サービスまでお問い合わせください。電話番号はコーヒーマシンに貼ったラベルと納品書に記載されています。



8 メッセージと注意事項

8.1 操作上の通知

コーヒー豆を補充

- ※ コーヒー豆ホッパーを補充(表示参照)
- ※ 確認:
 - コーヒー豆ホッパーのロックが解除されていますか?
▷カスマーカ7
 - コーヒー豆がスムーズに落ちません。
- ※ 大きめのスプーンでかき回して  で確定する

給水してください

- ※ 水道の栓を開き、確定する

コーヒー加受けを空にする

- ※ コーヒー加受けを空にする

コーヒー加受けがありません

- ※ コーヒー加受けを再び正しく設置する

浄水フィルタを交換

- ※ 浄水フィルターを交換
浄水フィルターの取扱説明書を参照してください。
- ※ 必要な場合、WMF サービスに連絡

WMF サービスに連絡

エラー番号の表示

エラー通知と不具合
▷108ページ

サービスメッセージ

- この通知がパネルに表示されると、サービスメンテナンスが必要です。
- ※ WMF サービスに連絡

サービス通知は注意事項です。
通常、コーヒーマシンはそのままお使いいただけます。

8.2 エラー通知と不具合

エラー通知が表示されたときや不具合発生時の基本的手順は次の通りです。

- * コヒーレンスのスイッチを切り、数秒後もう一度スイッチを入れる
- * エラーが発生したときの操作を再試行

多くの場合、これによって不具合が解消され、正常に作動させることができます。

この操作で解消できなかった場合:エラー表示またはエラー番号をもとに以下の表を参照して対応してください。

それでも解消できないか表示されたエラーが記載されていない場合は、WMF サービスにご連絡ください。

通知の中には個別機能が停止するものがあります。この場合、飲料ボタンの照明が消えます。飲料ボタンが点灯している飲料では引き続き供給が可能です。

WMF 5000 S+には診断プログラムが装備されています。発生したエラーはパネル上に表示されます。表示されるエラー通知は、原因の一つに主電源の異常も考えられます。

現在エラーが発生しているか、管理責任者への注意事項がある場合、パネル上  が表示されます。

- *  をタッチする

エラー通知およびエラー番号が表示されます。



コーヒーマシンはオン/オフボタンを押してから約1秒後に反応し、オクになります。
不具合の解消のため(ソフトウェアのリリースなど)、オン/オフボタンを長押しして制御システムの電源を切ってください。次に、コーヒーマシンの電源を入れます。

注意事項

エラー番号	エラーの内容	対応
88	ボイラー: 温度過昇	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切り、冷めてから再びスイッチを入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
161	フロアエラー: 抽出用熱湯	<p>以下の各ステップ間では、毎回コーヒーマシンのスイッチを切ってから、再び入れてください。エラーが解消されない場合、次のステップを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> * グランドの挽き目を粗く設定 ▷ソフトウェアシステム▷グランドの挽き目の設定、73° -ジ * 品質レベルを下げる ▷設定▷レベル、49° -ジ * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
186	システムボイラー: 水位	<p>供給が一時的にロックされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる * 水道の給水栓が開いているかを確認します
188	加熱エラー	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを抜く * WMF サービスに連絡
9083	クーラー温度が冷凍 レベルになっています	<ul style="list-style-type: none"> * クーラー温度の設定が低すぎないか確認
9507	フロアエラー: 水圧不足	<ul style="list-style-type: none"> * 給水栓を開き、水タンクに水を補充する * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡

エラー番号	エラーの内容	対応
9678 9679 9619	右側のグラインダーが ブロックされている 左側のグラインダーが ブロックされている	 <ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切ります * 主電源からプラグを抜く * 豆ホッパーを取り出します * 必ずホッパー用マルチツールを使ってグラインダーディスクを反時計回りに回します (2本のピンがグラインダーのスロットに正しく差し込まれるようにすること) ▷ ガスタマケア ▷ コーヒー豆ホッパーのクリーニング、100° -ジ * ホッパーを再びセットします * コーヒーマシンのスイッチを入れる <p>よく起こることとして:</p> <ul style="list-style-type: none"> * グラインダーの挽き目を一段階粗めに設定 ▷ ソフトウェア ▷ システム ▷ グラインダーの挽き目の設定、73° -ジ

8.3 エラー通知なしの不具合

不具合図	対応
<ul style="list-style-type: none"> • チョコが供給されないのにコーヒーが受けに水がたまる 	<ul style="list-style-type: none"> * チョコの供給は使用しないこと * WMF サービスに連絡 (コーヒーの供給は可能)
<ul style="list-style-type: none"> • チョコホッパーの詰まり、チョコ飲料は水のみ供給される 	<ul style="list-style-type: none"> * ホッパーをクリーニング ▷ ガスタマケア ▷ パウダーホッパーのクリーニング、101° -ジ * パウダーホッパーを空にする * スクリューを手で回して、パウダーを完全に排出 * 必要であれば水洗いする * 全ての部品を完全に乾かす
<ul style="list-style-type: none"> • チョコ供給中に大きな音 	<ul style="list-style-type: none"> * ミサーカップを取り外す * ミサーホイルが正しく配置されているかを点検します ▷ ガスタマケア ▷ ミサーのクリーニング、97° -ジ * 必要に応じてミサーホイルを交換します
<ul style="list-style-type: none"> • コーヒーの出方が左右で異なる 	<ul style="list-style-type: none"> * コヒー供給口のクリーニング ▷ ガスタマケア ▷ ミルクシステムをマニュアルでクリーニング、95° -ジ

不具合図	対応
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクが容器に入っているのにミルクフォーム/ミルクが出ない 	<ul style="list-style-type: none"> * ミルクホースが折れたり、押しつぶされていないか確認 * ミルクホースを正しく配置 * イージ-ミルク: コンビ[®] 供給口をクリーニング[®] * ダ イミックミルク: コンビ[®] 供給口を手作業でクリーニング[®] * ダ イミックミルク: ミルクを補充し、カスタマーケアメニュー上で、「ミルクシステム補充」を選択 ▷ソフトウェア▷カスタマーケア▷ミルクシステム補充、43[°]-ジ * ミルククーラーが凍結していないか確認
<ul style="list-style-type: none"> • AutoClean プラグアクト[®] クリーン アダプターが差し込み ないしロックしない 	<ul style="list-style-type: none"> * プラグアクト[®] クリーンソケットのデイスクの配置を点検してください デイスクがゆがんでいる可能性があります。
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクフォームがきれいに仕上がらない • 温度が低すぎるか、高すぎる 	<p>ダ イミックミルク</p> <ul style="list-style-type: none"> * 品質チェックを実施する <p>この機能は、有資格のスクリーning[®]を受けた作業員のみにも操作可能です。必要に応じてサービス担当者にご連絡ください。</p> <p>イージ-ミルク</p> <ul style="list-style-type: none"> * 設定された温度がミルクの温度と一致するか確認 * コンビ[®] 供給口のクリーニング[®] ▷カスタマーケア▷ミルクシステムをマニュアルでクリーニング[®]、95[°]-ジ
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクフォーム供給時にミルクが飛び散る • ミルクが熱くなりすぎる 	<ul style="list-style-type: none"> * ミルクシステムがクリーニング[®]されているかを確認 * ミルクシステムをクリーニング[®] ▷カスタマーケア▷ミルクシステムをマニュアルでクリーニング[®]、95[°]-ジ * 使用しているミルクが十分冷蔵されているかを確認する
<ul style="list-style-type: none"> • パウダー-飲料供給なし 	<ul style="list-style-type: none"> * ミキサカップ[®] をクリーニング[®] * ホースが折れていないかチェック * クリーning[®] とリンスを必要なら毎日でも実施 ▷カスタマーケア▷ミキサのクリーニング[®]、97[°]-ジ * パウダー-量を減らす * 水の量を増やす

不具合図	対応
<ul style="list-style-type: none"> • ホットが連続作動し、コーヒー受けに水がたまる 	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
<ul style="list-style-type: none"> • チョコ製品容器をセットできない 	<ul style="list-style-type: none"> * ポットホルダーにあるポットホルダーのスクリー用駆動系を手で時計回りに少し回す * チョコ製品容器が誤ってロックされていないか確認
<ul style="list-style-type: none"> • コーヒー豆ホッパーをセットできない 	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒー豆ホッパーが誤ってロックされていないか確認 * コーヒー豆がグラインダーとホッパーの間に挟まれているかを点検します

9 安全性と保証

9.1 コーヒーマシンに対する危険



取扱説明書を確認

注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。
設置・使用条件を守ってください。

設置場所

- 設置場所には必ず乾燥した水の飛び散らない場所を選んでください。
- コーヒーマシンからは常に少量の凝縮水や水、蒸気が流れ出る可能性があります。
 - > コーヒーマシンを屋外で使用しないでください。
 - > コーヒーマシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
 - > 設置面への損傷を防ぐため、コーヒーマシンは必ず防水性があり、熱に強い敷物の上に設置してください。

コーヒークラインター

- 異物が混入するとコーヒークラインターが破損するおそれがあります。このような損傷は保証対象外となります。
- > 従って、コーヒー豆ホッパーに異物が混入しないように注意してください。

コーヒーマシンの技術的トラブルや損傷を避けるために、以下の注意事項に従ってください：

- 5°dKH (炭酸硬度) 以上の飲料水向けには、WMF 浄水フィルターをご使用ください。WMF サービスが推奨する浄水フィルターを使用しないと、コーヒーマシンを破損するおそれがあります (カルキ付着など)。

重要

保証の章に注意
▷117ページ以降
設置・使用条件
▷17ページ以降

- 安全を確保するために、業務終了時には必ず主電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。水道水接続がある機械の場合、水道のメインコックは閉じていなければなりません。
- 損傷を防ぐために、以下の対策を推奨します：
 - 水道に適切な水検出器を取り付ける
 - 煙感知器の取り付け
- 休みの(数日/数週間)後でマシンの運転開始を再度行う前に、クリーニングプログラムを2回以上実行することを推奨します。

システムクリーニング
プログラム
85°F以下で

9.2 ガイドライン

製造者: WMF GmbH, 73312 Geislingen (Germany)

本機はMRL (MD) 指令2006/42/EC、EMC 指令2014/30/EU および RoHS 2011/65/EU に関連する全ての指令に準拠しています。

上述の製造者はこのマシンがこれらのガイドラインに関連する全ての指令を遵守していることを宣言します。当社の許可なしに装置に変更や改造を加えると、この解説は有効性を失うものとなります。技術関連資料の作成: WMF GmbH.

本機には適合解説書の原本が同梱されています。

本機にはCEマークが付与されています。

本機は現行のドイツ食品および飼料法記録(LFGB)、ドイツ消費財条例(BedGgstV)、EU10/2011、EC規則1935/2004に準拠しています。

適正な目的で使用する場合、本機による健康被害のおそれや、不当な危険はありません。

使用される材料および原材料は、ドイツ消費財条例および欧州委員会 (EU) 規則No.10/2011に準拠しています。

本機は電気電子機械廃棄物指令 (WEEE 2012/19/EU) により、一般廃棄物としての廃棄が禁止されています。

EC規則No. 1935/2004基準でのトレイザ® リティを確立し、EC規則No. 2023/2006に準拠した製造管理および品質管理に関する基準による製造を確実に行うことを、当社は保証いたします。

欧州以外の国ではその国で指定される条件が適用されます。



廃棄の際には、WMF サービスまでお問合せください。

連絡先
▷106ページ

9.3 管理責任者の義務

マシンの管理責任者は、WMF のサービス技術者、WMF の依頼を受けた技術者、またはその他の権限を有する技術者による定期的なメンテナンスと、安全に関する装置の点検を手配しなければなりません。

サービス領域へのアクセスが認められているのは、特に安全性や衛生面に関する本機の知識・経験が豊富なスタッフのみとなっています。

コーヒーマシンは、支障なくカスタマーケアやメンテナンスを行える場所に、管理責任者が設置してください。

事務所や厨房での使用など、セルフサービスでコーヒーマシンをご使用になる場合は、操作方法を心得たスタッフがコーヒーマシンを管理しなければなりません。トレーニングを受けたスタッフがカスタマーケア措置を守っていることを確認し、利用上の質問に対応するようにしてください。

マシンを使用する施設の電気設備と運転設備が使用地域の規定に準拠していることを、管理責任者は確認しなければなりません(ドイツ法的損害保険組合規定3など)。コーヒーマシンを安全にお使いいただくためには、特にセーフティバルブと圧力容器の定期的な点検が必要です。

これらの措置はWMFサービス、またはWMFが権限を与えたサービス技術者によって、メンテナンス作業の一環として行なわれます。

マシンのクリーニングには、必ずWMFの指定によるコーヒーマシンのWMF特殊洗剤とミルクシステム用のWMF特殊洗剤をご使用ください。

メンテナンスのサイクルと頻度につきましては製造者が定める内容(▷メンテナンス)に従ってください。

クリーニング 頻度の概要

▷84° -ジ

HACCP

▷103° -ジ

WMF特殊カルシウム除去剤

▷アクセサリとスプレッド

122° -ジ

9.4 保証請求



取扱説明書を確認

- ・ 注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。
- > 設置・使用条件を守ってください。

購入者への保証の有無と、購入者への保証がある場合の保証条件は、購入者と販売者の間の取り決めによって定められるものとします。本取扱説明書の指示を無視して損傷が起きた場合は、保証の対象とはなりません。

保証対象外となるのは：

- ・ 日常的な使用で消耗する部品全般。パッキン、ミキサー、抽出装置などもこれに含まれます。
- ・ 天候の影響、ホイターの加圧堆積、化学的/物理的/電気化学的/電氣的影響による不具合。
- ・ 現場の水の硬度により浄水フィルタの使用が必要であるにもかかわらず、浄水フィルタを使用しないで不具合に至った場合。
- ・ 本機の取り扱い、メンテナンス、カスタマーケアに関する規定（取扱説明書やメンテナンス指示など）に従わなかったことにより生じた不具合。
- ・ WMF純正スパーツを使用しない場合や、マシンが購入者か第三者によって不適切に取り付けられている場合、あるいは不適切または十分な注意をとまなわない取り扱いの結果として生じた不具合。
- ・ 購入者、または第三者によるWMFの許可を伴わない不適当なマシン修理、改造、調整の結果生じた不具合。
- ・ 取扱説明書に記述された用途以外の使い方をした結果生じた不具合。

重要

設置・使用条件
▷17ℓ -ジ以降

重要

メンテナンス
▷105ℓ -ジ

付録:テクニカルデータ

コーヒーマシンのテクニカルデータ

外寸	幅325 mm 高さ716 mm (ロック式コーヒ-豆ミルクホッパ-込み) 奥行590 mm
コーヒ-豆ホッパ-	それぞれ約1,100 g ⁽¹⁾ 中央コーヒ-豆ホッパ-は約700 g ⁽¹⁾
パ°ウタ-ホッパ-(オプ°ション)	約2,000 g ⁽²⁾
空重量	約37 kg (装備により異なる)
水道	メインコックとフィルタ-(メッシュ幅0.08 mm) 付き3/8インチのホ-ス接続(現場側で用意) ⁽³⁾ 2 L/分の時の最小水圧0.2 MPa (2 bar)。 最高水圧0.6 MPa (6 bar)。 重要! 現地の水圧が0.6 MPa (6 bar) を超える場合には、最大0.6 MPa (6 bar) に設定されるよう、必ず減圧弁をあらかじめ作動させる必要があります。 最大供給温度 35 °C。コーヒ-マシン、直結給水接続用キットまたは新しい浄水フィルタ-と一緒に納品されるホ-セットを使用する必要があります。使い古したホ-スは再使用しないでください。
水質	5 °dKH (炭酸硬度) 以上の飲料水向けには、WMF 浄水フィルタ-をご使用ください。
排水パ°イ° (オプ°ション)	ホ-スはDN 19以上、最低傾斜は2 cm/m
NNを超える高さでの使用	<2,000 m

予告なく仕様変更することがあります。

(1) カップ容量はコーヒ-豆のサイズによって変化します。

(2) オプ°ションのパ°ウタ-ホッパ-装着時のみ。カップ容量は使用するパ°ウタ-の種類によって変化します。

(3) コーヒ-マシンの給水接続には本規格 (IEC 60335-2-75) が適用されています。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU 圏外では、コーヒ-マシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をフィクシなくてはなりません。

定格消費電力	9 kW
電圧	200 V、50/60 Hz、(2/PE)
照明	LED
保護等級	IP X0
保護等級	等級
定格圧力	ボイラー 1.6 MPa (16 bar) スチームボイラー 0.5 MPa (5 bar)
連続騒音レベル(Lpa)	<70 dB(A) ⁽⁴⁾
周辺温度	+5 °C ~ +35°C (寒いときは凍結防止のため水抜き)。
最高湿度	相対湿度80%、結露なし。 屋外での使用は禁止。
設置面/水しぶき	本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。

予告なく仕様変更することがあります。

⁽⁴⁾ コーヒーマシン操作スタッフ周辺の作業環境におけるA特性音圧レベルLpa (スロー) と Lpa (インパルス) は、作動モードにかかわらず常に70dB (A) 未満です。

<p>取り付け時の間隔</p>	<p>機能上、およびサービス・安全上の理由から、マシンの側面は壁もしくは非WMF製コンポネントから50 mm以上離して設置してください。背面では50 mm以上の安全距離が必要です。 コヒーマシンの最小作業スペースは800mm、製品のホッパー部分上部の高さ最小スペースは200mmを確保することを推奨しています。設置面上端から上向きに1,100 mmのスペースを確保すること。床面からマシン設置面までは最低850 mmの高さを確保すること。コヒーマシンの各種接続をマシン下からカウンターに通す場合、ライン敷設に必要なスペースに注意してください。敷設するラインによってマシン下の利用可能な空間が制限される場合があります。</p>
<p>浄水フィルタの取り付け寸法</p>	<p>浄水フィルタの取扱説明書を参照してください。</p>

予告なく仕様変更することがあります。

上記の電気接続基準と引用されている規格は、EU各国にてコーヒーマシンの接続規格として適用されます。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU圏外では、コーヒーマシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をチェックしてはなりません。

現場の電気設備は IEC 60364 規格に準拠して国が指定する規則に従い配備され、また、機銘板に記載される仕様情報に対応していなければなりません。

本機のそばの、支障なくアクセスできる場所に、単相電源の場合 Schuko プラグ ソケットが使用国の基準の単相ソケットを、三相電源の場合は、DIN EN 50310

VDE 0800-2-310 に準拠した 5 極 CEE/CEKON ソケットが使用国基準の多極ソケットを用意してください。プラグソケットはお客様側でご用意ください。主電源ケーブルが高温になった部品に接触しないようにお気をつけください。本機の主電源ケーブルが損傷した場合は、危険防止のために WMF サービスエンジニアが同等の資格を有するスタッフが交換を行ってください。

会計システムと接続して使用する場合、機械間の等電位化電流によって生じる可能性のあるケーブルのシールド線の不具合を防ぐため、追加の等電位化処理を行うようにしてください (DIN EN 50310 VDE 0800-2-310 を参照)。

マシンを大型のキッチンに設置する場合には、接地・等電位ボンディング用導体をマシンに取り付けることを推奨します。アース端子 (等電位ボンディング) の取り付けは、必要に応じて WMF サービスエンジニアが行います。

付録:アクセサリとスハ°アハ°-ツ

数量	単位	名称	注文番号	装備
給水接続				
1	個	水道水接続での接続ホース	33 2292 1000	全て
1	個	排水ホース用エルボ°-	33 2165 8000	全て
1.5	メートル	排水ホース	00 0048 0042	全て
ツール				
1	個	マルチツール	33 2408 4000	全て
製品ホルダ°-				
1	個	豆ホッパ°-とハ°ウタ°-ホッパ°-のフタ	33 2655 7099	全て
1	個	中サイズ°豆ホッパ°-のフタ	33 2655 8099	全て
1	個	ユーヒ°豆ホッパ°-/製品ホルダ°-の識別ラベル	33 2624 7000	全て
ミルク/ミキサーシステム				
1	個	ダ°ブルフォームフル	33 2867 5300	イ°ジ°-ミルク
1	個	ミルクカバー	33 2614 9000	イ°ジ°-ミルク
1	メートル	ミルクホース	00 0048 4948	全て
1	個	ミルクホースのばね	33 0190 3000	全て
1	個	ミルクホース用スリーブ°	33 2180 5000	全て
1	個	ブ°ラグ°・アント°・クリーン°ラグ°・アント°・クリーン°アタ°プ°タ	33 2427 5000	全て
1	個	ミキサーカップ°	33 2895 4000	ハ°ウタ°-
1	個	ミキサーホイール	33 2895 5000	ハ°ウタ°-
0.25	メートル	ミキサーホース	00 0048 0064	ハ°ウタ°-
ド°リップ°トレイ/ド°リップ°グリッド				
1	個	スチ°ム°ジ°エット付きド°リップ°トレ	33 2633 7100	スチ°ム°ジ°エット付き
1	個	スチ°ム°ジ°エットなしド°リップ°トレ	33 2633 7000	スチ°ム°ジ°エットなし
1	個	スチ°ム°ジ°エット付きド°リップ°グ°リット°	33 2633 8100	スチ°ム°ジ°エット付き
1	個	スチ°ム°ジ°エットなしド°リップ°グ°リット°	33 2633 8000	スチ°ム°ジ°エットなし



数量	単位	名称	注文番号	装備
WMF ケアプログラム				
1	パック	クリーニングタブレット(100個)	33 2332 4000	全て
1	パック	ミルクシステム専用クリーニングタブレット	33 2622 0000	全て
1	個	ミルクシステム用クリーニングホッパー	33 2593 6000	全て
1	個	ミルクシステム-フタ用クリーニングホッパー-フタ	33 2593 7000	全て
1	個	パイプクリーナー	33 0350 0000	全て
1	個	クリーニングブラシ	33 1521 9000	全て
1	チューブ	WMF「パッキン用グリス」Molykote	33 2179 9000	全て
1	ボトル	ミルクフォーム用のWMF特殊洗剤	33 0683 6000	
4	ボトル	WMFミルクシステムクリーナー (AutoClean)	33 4748 1000	AutoClean
4	パック	WMFクリーニング顆粒 (AutoClean)	33 4745 4000	AutoClean
ドキュメント				
1	個	資料一式:WMF 5000 S+	33 4186 6060	全て

索引

- 2種類目のコーヒー 40
- 2種類目のミルクタイプ (お^ろ ショ^ろ) 40, 55
- アイスコーヒー 48
- アケセリとス^て ア^パ - ツ 122
- アニメーション 43
- イ^ージ^ー ス^チム 30
- パ^ネ の表示 70
- インフォメーション 60
- ICモード 67, 72, 79
- I^ラ表示 55
- I^ラ通知と不具合 108
- I^ラ通知なしの不具合 110
- オートス^チム 30
- オートス^チムス^チム/ス^ルのクリーニング^ク 98
- お^ろ ショ^ろのフィ^ルド^ト 28
- お^ろお^ろスイッチ 21
- ガ^イド^ライン 114
- カウンタ^ー 61
- カウンタ^ーのエク^スポ^ート 80
- カスタマ^ーケア 41, 60, 82
- キャ^プ ウォ^ーマ^ー 21, 31
- キャ^プ サイズ 55
- キャ^プ サイズ 調整 28, 39
- キャ^プ セン^サーをクリーニング^ク 95
- キャ^プ の高さを手動で調整 51
- キャ^プ 容量 45, 55
- キャ^プ 容量 S/M/L 45
- キャ^プ 容量選択 28
- キャ^プ 検出 75
- キャ^プ 検出 (お^ろ ショ^ろ) 32
- カ^レイン^フリー 57
- カル^シ除去 60
- ク^イック洗^浄 (AutoClean) 88
- ク^リニ^ング PIN 63
- ク^リニ^ング タ^ブレットを補充する (AutoClean) 92
- ク^リニ^ング プ^ログ^ラム 85
- ク^リニ^ング 後にミルクシステムを準備 43
- ク^リニ^ング 頻度 84
- ク^リンロ^ク 42
- コ^ーヒ^ーが受け 21, 34
- コ^ーヒ^ーが受けのクリーニング^ク 94
- コ^ーヒ^ーが落とし (お^ろ ショ^ろ) 34
- コ^ーヒ^ーが ラ^イン^ダ を選択 50
- コ^ーヒ^ークリーニング^ク 顆^粒 92
- コ^ーヒ^ーの品質 49
- コ^ーヒ^ーマシンに対する危険 113
- コ^ーヒ^ーマシンのスイッチを入れる 26
- コ^ーヒ^ーマシンのテク^ニカル^デ - タ 118
- コ^ーヒ^ーマシンの各部名称 20
- コ^ーヒ^ー粉の量 48
- コ^ーヒ^ー豆^ホッ^パ - 21
- コ^ーヒ^ー豆^ホッ^パ - のク^リニ^ング^ク 100
- コ^ーヒ^ー豆^ホッ^パ - /パ^ウダ^ー - ホ^ッパ^ー - 32
- コ^ンビ^レ 供給口の手動クリーニング^ク (タ^ク 付ミ^ツカ^ミルク) 97
- コ^ンビ^レ 供給口の高さ調整 32
- サー^ビス 60
- サイ^ズ 設定 S/M/L 76
- サイ^ド 照明 21
- サ^マ - タ^イム 67
- シ^ステム 68
- シ^ステムク^リニ^ング^ク 41, 85, 87, 88
- シ^ロッ^プ (お^ろ ショ^ろ) 74
- シ^ロッ^プ ステ^ーションお^ろ ショ^ろ 25
- スイ^チ オ^フ 35
- スイ^チ オ^ン リ^フス 43
- スタ^ート・ス^トッ^プ 46
- スタ^ート・ス^トッ^プ フ^リー^フロー 46
- ス^チム^シ ユ^ニット 21, 54
- ス^チム^シ ユ^ニット^パ ヲ^ツト^ト 21, 31, 38
- ス^チム/ス^ル 21
- ス^チムホ^ッタン 40
- ス^チム供給 (お^ろ ショ^ろ) 29
- スマ^ート^レイト 78
- セル^フア^ビス 53
- セル^フサー^ビスモ^ード 53
- ソフト^ウエア 36
- タ^ク 付ミ^ツカ^ミルク ミ^{ルク}フォームの仕上がり品質 49
- タイ^マ - 60, 64
- タイ^マ - の入る時間を設定 65
- タイ^マ - 予定表とタイ^マ - の設定 64
- タイ^マ - 削除 65
- タイ^マ - 日別概要 65
- タ^ッチ^パ 補^給のキ^ャリ^ブ レ^ーション 70
- タ^ブレット洗^浄割^入投^入口 21
- テ^ータ^のバ^ック^アッ^プ 81
- テ^ータ^をロ^ート^{する} 81
- テ^ーイ^スト^レイトと照^明 69
- テ^ーイ^スト^レイト照^度減^少 70
- テ^ーカ^フ 40
- テ^ーカ^フ係^数 57
- テ^キストと画^像 50
- テク^ニカル^デ - タ 118
- テ^クニ^クルリ^ユー^ション 78
- ト^リッ^プ ト^レーのク^リニ^ング^ク 94
- ト^リッ^プ ト^レイ 35
- パ^ウダ^ー - ホ^ッパ^ー - (お^ろ ショ^ろ) 21
- パ^ウダ^ー - ホ^ッパ^ー - のク^リニ^ング^ク 101
- パ^ー 補^給の照^度 70
- パ^ー 補^給の背^景 70
- パ^ー 補^給上の通^知 37

- パリスパッド 21, 53
- パリスパッド - コーヒーの濃さ 39
- ファームウェアの更新 81
- フィルタ容量 72
- フォーマーのリス 90
- フォーマーのリス (ダ イミックミルク) 90
- プ ラグ アンド クリーンソケットを洗浄する (AutoClean) 97
- プリアー 46
- プ ログ レス デ ィス プ レイ 69
- プ ロトコル 60
- ポ ーショナー 73
- ポ ストセレクション 57
- ポ ックの入れ替え 52
- ポ タルイアト 56
- ポ タルイアト (タイマー) 66
- ホットリンスパッド 21, 39, 54
- ホット - ロック 21
- マニュアル投入口 33
- ミキサーのクリーニング 97
- ミキサーリス 41, 91
- ミルク (オプ ション) 74
- ミルクシステム クリーナー 92
- ミルクシステムクリーニング 41, 42, 89
- ミルクシステムをマニュアルでクリーニング 95
- ミルクシステムをマニュアルでクリーニング (イージ - ミルク) 95
- ミルクシステム補充 40, 43, 56
- ミルクの量 48
- ミルクフォーマー内蔵型コヒレ 供給口 21
- ミルクフォームの供給 26
- ミルクフォームの選択 58
- ミルク/ミルクフォームの供給 26
- ミルクを冷やす 26
- ミルク保管温度 68
- メーカーのロゴ 59
- メインメニューの機能 37
- メッセージと注意事項 107
- メニューパッド 21, 54
- メニュー制御パッド 37
- メンテナンス 105
- メンテナンスとカビ除去 105
- モード 76
- リモートアクション 78
- レシビ についての備考 50
- レシビ のパ ックアップ 44
- レシビ の保存 80
- レシビ の変更 47
- レシビ をPDFファイルとしてセーブ する 80
- レシビ をロード する 44, 80
- ロギ 59
- 一般的な安全上の注意事項 7
- 事前選択パッド (オプ ション) 28
- 仕上がり品質 49
- 会計 61
- 会計PIN 63
- 使用目的 14
- 供給 46
- 供給オプ ション 46
- 供給テスト 44
- 供給位置の訂正 75
- 供給可能 36
- 供給可能表示 20, 21, 38
- 保証対象外となるのは: 117
- 保証請求 117
- 前回の抽出 60
- 取り付け時の間隔 120
- 取り外し可能なドリッパトレ (ドリッパゲリッド 付き) 21
- 取扱説明書の記号 22
- 取扱説明書の記号とマーク 22
- 品質チェック (ダ イミックミルク) 69
- 外装のクリーニング 95
- 外部会計 61
- 安全上の注意事項 取扱マニ ャル 82
- 安全性 7
- 安全装置 7
- 定格消費電力 119
- 工場出荷時設定で用意されている追加オプ ション 47
- 序章 20
- 徹底システムクリーニング (AutoClean) 42
- 手動クリーニング 93
- 抽出圧表示 73
- 挽いたコーヒーでコーヒーをいれる 33
- 挽き目設定 73
- 操作 24
- 操作オプ ション 53
- 操作に関する安全上の注意事項 24
- 操作パネル 21
- 操作パネルクリーニング (クリーンロック) 93
- 操作上の通知 107
- 操作要素 53
- 新しいPINを入力 63
- 時刻帯 67
- 時刻/日 64
- 栄養成分情報 39, 54, 75
- 概要 36
- 機能ライン 38
- 機能ライン供給可能表示 36
- 水質 118
- 水道 118
- 水量 48
- 浄水フィルタ - 60, 71
- 淹れたてフィルタコーヒー - FFC (オプ ション) 21, 27
- 温度 72

索引

無料設定 62
照明 69
熱湯/ズル 21
熱湯ホッタン 38
熱湯供給 28
現在のレシオ構成 47
用語集 23
硬度 71
硬度の計測 71
管理責任者の義務 116
総硬度 72
総硬度の計測 72
自動カップ検出 21
自動販売機 61
自動高さ調整 32
複数抽出 46
言語 78
言語がレ選択 56
言語をロードする 81
設定 43
設定PIN 63
設置・使用条件 17
設置面 119
許容カップ高さ 75
説明 43
追加 47
追加オプションの変更 48
追加物の削除 48
顧客のタブラー 77
飲料 44
飲料のキャンセル 27, 58
飲料のマークをロードする 80
飲料がレレクション 58
飲料ホッタン 21, 38
飲料ホッタンと設定用ハッセル 21
飲料供給 27
飲料:文字 + 色 71

A

AutoCleanクリーニング 66

B

Bluetooth 73

F

FFC 48
FFCフィルター交換 42, 91

H

HACCPイコホート 81
HACCPクリーニング コンセプト 103

P

PIN権限 62

S

S/M/Lハット 39
S-M-L機能 45, 74

U

USB 80

W

WMF サービス 106

お

お客様の口 59

シリーズ 1950 33 4186 6060 05.2021

お近くのWMF サービス:

© 2018–2021 WMF GmbH

複製、配布、翻訳など全権利を保有します。書面による許諾なしに、当マニュアルの一部または全てを何らかの形で複製、電子形式を使用して処理、複写、配布することは固く禁じられています。

デザインと製作/テキストおよび構成:

TecDoc GmbH; Geislingen, info@tecdocgmbh.de

取扱説明書 (翻訳版) 日本国内で印刷。

予告なく仕様変更することがあります。

31.05.2021



DESIGNED TO PERFORM

wmf.com